

筑後東部地区遺跡群Ⅷ

福岡県筑後市大字久恵所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第58集

2004

筑後市教育委員会
(財)元興寺文化財研究所

ちくごとうぶちくいせきぐん
筑後東部地区遺跡群VIII

くえこんどう
久恵権藤遺跡第1・2次調査

くえなかの
久恵中野遺跡

くえかみかわほら
久恵上川原遺跡

くえひがしきし
久恵東岸遺跡

2004

筑後市教育委員会
(財)元興寺文化財研究所

序

本書は、平成8年度に調査を行いました久恵権藤遺跡ほか4遺跡分の発掘調査報告書です。筑後市内では毎年数多くの発掘調査を行っております。はるかな過去の歴史は、現在に生きる私たちに歩むべき道を指し示してくれます。遺跡の調査は歴史のロマンというだけでなく、私たちが学ぶべき過去を目に見える形で提示してくれる大切な作業であるといえます。しかしながら、今日の豊かな社会はこういった遺跡を破壊することで成り立っていることも事実です。本市では失われてゆく文化財を、守り、記録してゆくことに全力を傾けております。残念ながら現状では調査に追われ、報告が後手に回っていることも否めません。見つかった遺跡を正しく評価し、「歴史」として昇華するために、報告書の刊行をはじめ今後も鋭意努力を行ってゆく所存であります。市民の皆様をはじめ、関係各位のご指導・ご助言を請う次第であります。

平成16年3月

筑後市教育委員会
教育長 城戸一男

例言

1. 本書は筑後市大字久恵所在の久恵権藤遺跡（第1次、第2次）、久恵中野遺跡、久恵上川原遺跡、久恵東岸遺跡に関する発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は筑後市教育委員会が行い、整理作業及び報告書の作成は（財）元興寺文化財研究所に委託して実施した。出土遺物他関連の図面や写真等の資料類はすべて筑後市教育委員会において所蔵・保管している。なお発掘調査および整理作業の関係者は、I.調査経過と組織に記したので参照されたい。
3. 本書に使用した方位は、全体図が座標北、個別遺構図は磁北である。
4. 発掘調査にかかわる遺構写真は久恵権藤遺跡を塚本映子、久恵中野遺跡を田中剛、永見秀徳、久恵上川原遺跡を田中剛、久恵東岸遺跡を大島真一郎が行い、遺物写真については大久保治が撮影した。
5. 遺構実測図の作成は久恵権藤遺跡を塚本、久恵中野遺跡を田中、永見、柴田剛（現伊万里市教育委員会）、永田佳子、久恵上川原遺跡を田中、久恵東岸遺跡を大島が行い、遺物実測図は仲井光代、鉛谷曜子、船築紀子が作成し、狭川真一、橋本英将、佐藤亜聖が補足した。浄書は岡本広義、武田、鉛谷が行った。
6. 本書の執筆はIを小林勇作が、IIIを橋本が行い、IIは橋本、佐藤が草稿を起こし、小林が補筆した。IVは1)を佐藤が、2)、3)を橋本が、4)を船築が草稿を起こし、小林が補筆した。
7. 本書中における陶磁器の分類は、太宰府市教育委員会『大宰府条坊跡XV』（太宰府市の文化財第49集2000年）による。
8. 本書の編集は小林が監修し、橋本、佐藤が担当した。

目次

I. 調査成果と組織	1
II. 位置と環境	2
III. 調査成果	
1. 久恵権藤遺跡	5
2. 久恵中野遺跡	13
3. 久恵上川原遺跡	25
4. 久恵東岸遺跡	32
IV. 総括	35

I. 調査成果と組織

調査に至る経緯

今回報告する筑後東部地区遺跡群VIIIは、平成6・7年度に筑後市教育委員会が実施した県営園場整備事業筑後東部地区に係わる4遺跡の発掘調査成果である。園場整備事業で行われる水路新設、耕作面工事によって遺構が削平を受ける部分について発掘調査を行い、削平を受けない部分については遺跡保存の措置を講じている。なお、以下に調査並びに整理・報告書作成の組織について記載する。

調査組織

1) 発掘調査および整理作業

発掘調査

平成6年度(1994年度)

総括	教育長	森田基之
	教育部長	津留忠義
庶務	社会教育課長	下川雅春
	社会教育係長	松永盛四郎
	社会教育係	永見秀徳 小林勇作 塚本映子(嘱託)(現:三瀬町教育委員会) 大島真一郎(調査補助員)(現:黒木町教育委員会)

平成7年度(1995年度)

総括	教育長	森田基之
	教育部長	津留忠義
庶務	社会教育課長	下川雅春(～9月30日) 山口逸郎(10月1日～)
	社会教育係長	本村正晴
	社会教育係	永見秀徳 小林勇作 田中 剛 塚本映子(嘱託) 大島真一郎(嘱託)

整理作業

平成15年度(2003年度)

(筑後市教育委員会)

総括	教育長	牟田口知良(～9月30日) 城戸一男(10月1日～)
	教育部長	菰原 修
庶務	社会教育課長	松永盛四郎
	文化スポーツ係長	成清平和
	文化スポーツ係	永見秀徳 小林勇作 上村英士 立石真二(嘱託)

(元興寺文化財研究所)

理事長	辻村泰善
所長	坪井清足
事務局長	奥洞二郎
研究部長	狭川真一
考古資料研究課長	横田直見

考古学研究室長
考古学研究室

塚本敏夫
岡本広義（主任研究員）
佐藤聖聖（主任研究員）
橋本英将（専門研究員）
江野朋子（研究員／土器修復担当）

2) 発掘調査参加者

地元有志

3) 整理作業参加者

大西美奈 小田真由美 武田浩子 仲井光代 鉛谷曜子 船橋紀子 三谷幸恵

なお、報告書作成に際しては、以下の方々、機関よりご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。

遠部 慎（南串山町教育委員会） 中川和哉（京都府文化財調査研究センター） 山川 均（大和郡山市教育委員会） 山村信榮（太宰府市教育委員会）

II. 位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部にあたる。市域をJR鹿児島本線と国道209号線が縦断し、国道442号線が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は、国道に沿って市の中央部に形成されている。

筑後市の歴史は旧石器時代まで遡ることができ、市内北部の蔵敷坂口遺跡や久恵地区北側の鶴田東大坪遺跡で遺物が出土している。つづく縄文時代は、市内南部で多くの遺跡が確認されている。特に鶴田岸添遺跡・久恵内次郎遺跡では早期の落とし穴が検出され、津島九反坪遺跡・志前田遺跡・鶴田岸添遺跡・久恵中野遺跡では早期と思われる石組炉を検出している。

弥生時代の遺跡も市内南部で多く確認されている。前期から中期の遺跡としては常用長田遺跡・津島九反坪遺跡・上北鳥塚ノ本遺跡などがあり多くの遺物・遺構が出土している。特に上北鳥塚ノ本遺跡では夜白式土器が出土しており注目されている。中期以降では蔵敷森ノ木遺跡・津島皿ヶ町遺跡・鶴田岸添遺跡などがある。

古墳時代の遺跡としては、市内北部の石人山・欠塚・瑞王寺などの古墳が有名である。また、弥生時代から継続して生活が営まれていた遺跡として蔵敷森ノ木遺跡・久富鳥居遺跡・鶴田西畑遺跡・津島南佛生遺跡などがある。

古代では、平安時代の法典『延喜式』にみられる「葛野駅」が筑後市内にあったと考えられており、市内中心部の羽犬塚中学校付近が有力地である。当時の官道である西海道の大要衝として認知される。古代の遺跡としては墨書土器が多く出土した羽犬塚中道遺跡、竪穴式住居で構成された大規模集落跡の若菜森坊遺跡がある。また、西海道跡として、鶴田中市ノ塚遺跡・山ノ井川口遺跡・羽犬塚山ノ前遺跡などがある。

中世には大宰府安楽寺領など社寺の荘園として発展し、その支配を基盤として当地域社会が形成されている。

今回報告する久恵権藤遺跡、久恵中野遺跡、久恵上川原遺跡、久恵東岸遺跡の位置する市内東部の扇状地性低地では、筑後東部圃場整備事業に係わる発掘調査によって、縄文から近世に至る多様な遺構、遺物が確認されている。しかしながら沖積低地という立地の性格上、洪水に伴う断続的な遺物の流入、押し流しに見舞われており、考古学的な視点からは、必ずしも安定した層位的な知見が得られないのが現状である。

<参考文献>

亀崎卓爾1997『第一編 自然』『筑後市史』第一巻 筑後市

柴田剛編2002『筑後東部地区遺跡群IV』筑後市文化財調査報告書第30集筑後市教育委員会



Fig.1 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)

III. 調査成果

1. 久恵権藤遺跡 (第1・2次調査)

久恵権藤遺跡は筑後市の南東部、大字久恵権藤に位置する (Fig.2・3)。調査面積は約5,000㎡である。調査は1994年10月27日～1996年3月31日にかけて、塚本映子が担当して行った。なお、報告の便宜として、各調査区をA・B・C区と呼称する (Fig.3)。

(1) 検出遺構 (Fig.4～11)

検出遺構はA区内からピット数基、土坑数基、B区からは、櫛列 (波板状凸凹)、溝8条、ピット数基、土坑数基、C区からは、溝3条、ピット数基、土坑数基を確認した。このうち土坑、ピットについては、出土遺物がなく、建物跡を構成するものもなかったため、以下櫛列、溝について報告する。

櫛列 (波板状凸凹面)

1 SA14 B区南側で検出した南北方向に伸びる遺構であり、9基の柱穴を確認した。出土遺物等はなく、時期や性格等は不明である。個別のピットは径30～60cm、深さ5～30cm、ピット間の距離は40～80cmを測る。調査段階

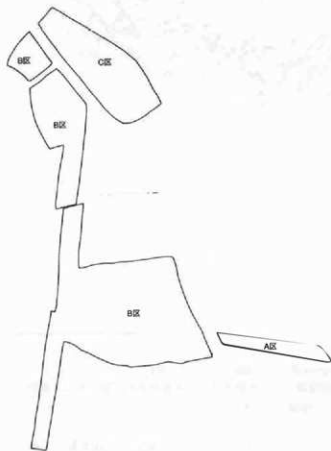
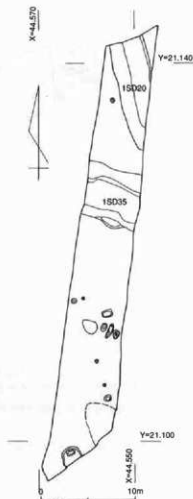


Fig.3 久恵権藤遺跡調査区配置図

Fig.4 久恵権藤遺跡A区全体図
(1:400)

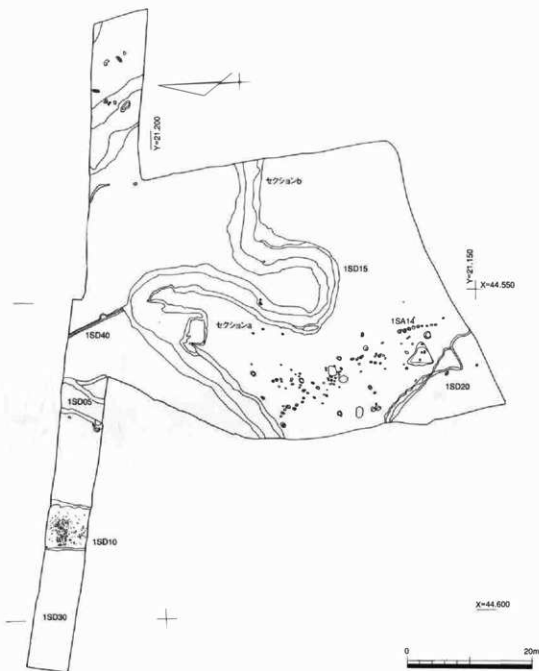


Fig.5 久志権藤遺跡B区全体図 (1) (1:600)

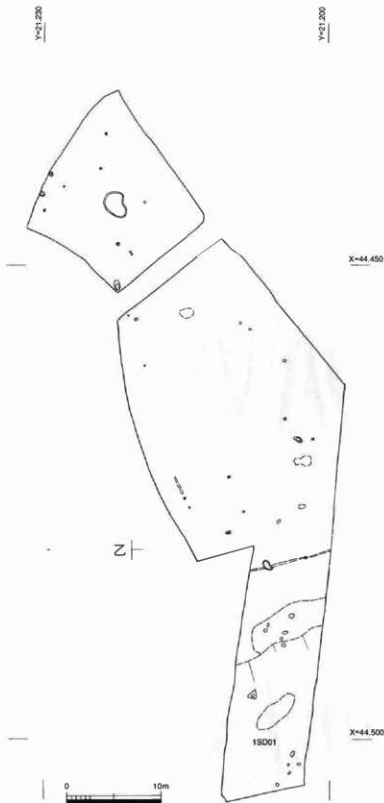
では欄列として捉えていたが、その後これが道路遺構として把握されている波板状凸凹面である可能性が生じた。詳細は総括にゆだねるが、現在の所道路遺構として認識している。

溝

1SD01 B区東側で検出した溝で、調査区内を南北方向に走る。幅約8.5m、深さ約0.55mを測る。埋土は粘質土を主体とする。出土遺物は、陶磁器片、弥生土器片、黒曜石剥片数点が出土した。

1SD05 B区西側で検出した溝で、南北方向に走る。幅約9.4m、深さ約0.8mを測る。埋土は粘質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SD10 B区西側で検出した溝で、南北方向に走る。幅約7.8m、深さ約0.8mを測る。埋土は上層で粘質土主体、



下層で砂質土主体となる。遺物等は出土しなかった。

1SD15 B区中央付近を蛇行しながら東西方向に流れる溝で、幅約4～4.5m、深さ約0.9mを測る。埋土は粘質土を主体とし、溝底付近で部分的に砂質土の堆積がみられる。サスカイト製の石鏃が出土した。調査時の所見では、後述の1SD20との類似性が指摘でき、調査区外で繋がる同一の遺構、もしくは時期や性格を等しくするものである可能性がある。

1SD20 B区南側で検出した溝で、北西—南東方向に走る。幅約5m、深さ約1.1mを測る。埋土は粘質土を主体とし、溝底付近に一部砂質土の堆積がみられる。遺物等は出土しなかった。

1SD30 B区西側で検出した溝で、南北方向に走る。幅約6.4m、深さ約0.4mを測る。埋土は粘質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。掘削当初は浅い落ち込み状の溝として存在していたと考えられ、調査区内では明確なプランを把握できていない。

1SD45 C区南側で検出した溝で、東西方向に走る。幅約0.3m、深さ約0.15mを測る。埋土は粘質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SD50 C区北側で検出した溝で、1SD45に並行して東西方向に走る。幅約0.9m、深さ約0.3mを測る。埋土は粘質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SD55 C区南西端で検出した溝で、東西方向に走る。攪乱のため溝幅は不明である。埋土は粘質土を主体とする。遺物は弥生土器片、土師器坏、皿、須恵器高坏、坏片、瓦器碗が出土したが、いずれも細片である。

(2) 出土遺物 (Fig.12・13)

久恵権藤遺跡からは、黒曜石製の石鏃、サスカイト製の石鏃、黒曜石チップ、土師器皿、須恵器片、瓦器碗、陶磁器片が出土した。多くは細片であり、

Fig.6 久恵権藤遺跡B区全体図 (2) (1:400)

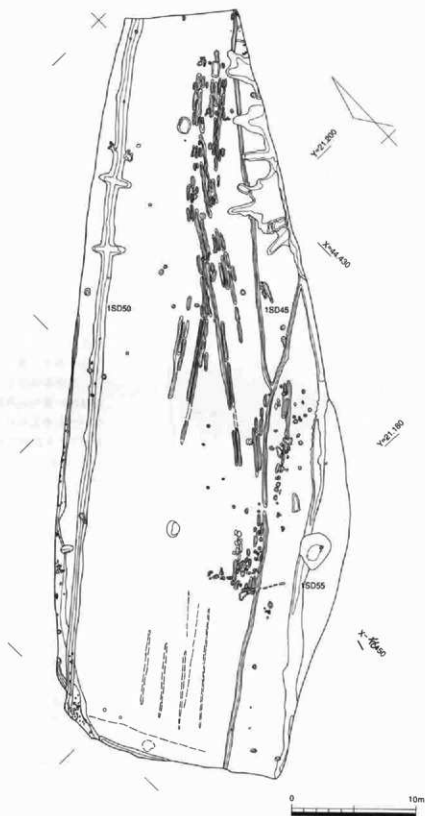


Fig.7 久恵権藤遺跡C区全体図 (1:300)

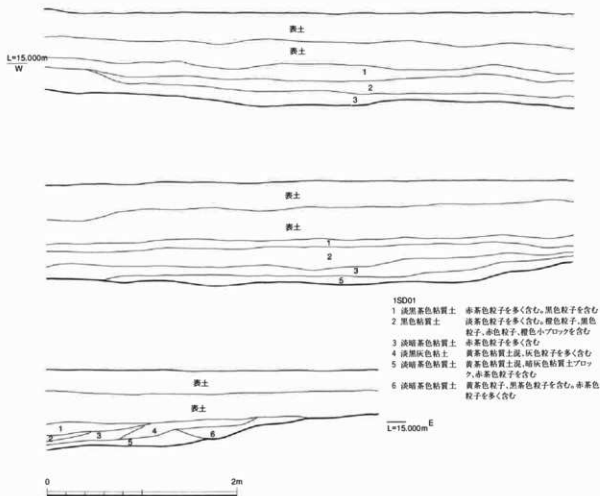


Fig.8 久恵権藤遺跡1SD01土層断面図(1:40)

図化可能であった石鏃3点と瓦器輪1点について報告する。

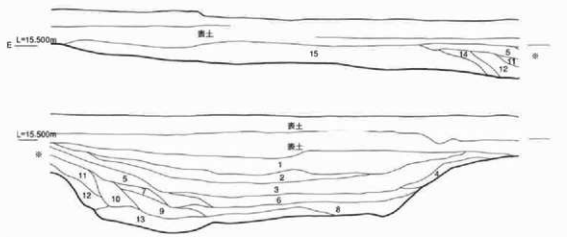
1SD15出土遺物 石鏃1点が出土した。1は凹基無茎式の石鏃である。両面を調整し、逆斜を比較的鋭く仕上げている。風化が著しい。最大長2.2cm、最大幅2.0cm、最大厚0.3cm、重量0.6gで完形。石材はサヌカイトである。

1SD55出土遺物 瓦器輪が出土した。復元口径16.7cm、残存高4.75cmを測る。色調は黒灰色を呈し、焼成は良好、極微小な石英、長石を含む。口縁は体部からわずかに外湾して斜め上方へ伸び、端部は丸くおさまる。風化のため調整の詳細は不明だが、外面に横方向のナデをおこなっているのが確認できる。

表土出土遺物 2は平基無茎式の石鏃である。基部は平基に近い凹基状に、体部は両面に調整が施されている。先端と側縁の一部を欠損する。最大長3.0cm、最大幅2.0cm、最大厚0.4cm、重量2.2gを測る。サヌカイト製。3は平基無茎式の石鏃である。作用部の中央に屈曲が作り出される五角形鏃である。最大長2.8cm、最大幅1.5cm、最大厚0.4cm、重量1.5gで完形である。サヌカイト製。

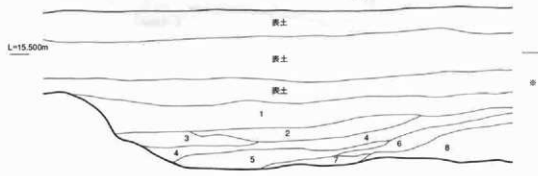
(3) 小結

久恵権藤遺跡の調査成果をまとめると以下ようになる。遺跡の時期については、縄文から中世にいたる遺物が出土しているが、明確に遺構と対応して出土したものがなく、調査区内で確認した遺構がどの時期に属するのかについては判然としない。遺物自体に関しても、特定の時期の遺物が傑出して出土する、といった状況は確認できず、遺跡自体の積極的な評価は非常に困難である。しかしながら、今回確認した合計9条の溝のうち、1SD15と1SD20については、北西方向もしくは南東方向に広がる集落との関連で掘られたものと考えられる。その他の溝についても、周辺の調査成果と対応させてゆくことにより、今後一定の評価が可能となるかもしれない。今後の調査の積み重ねに期待したい。



1SD05

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|------------|--|
| 1 淡黒色粘質土 | 黒茶色粒子を多く含む。黄茶色粒子をわずかに含む | 9 淡黄灰色粘質土 | 粘性は弱い。赤茶色ブロックをわずかに含む。黒色粒子を含む |
| 2 黒灰色粘質土 | 暗黄茶色粘質土ブロックを含む。黒茶色粒子を含む | 10 淡黄灰色粘質土 | 9より黄色味を帯びる。黒色粒子を含む。赤茶色ブロックをわずかに含む。赤茶色粒子を多く含む |
| 3 黒灰色粘質土 | 2より厚く、粘性が強い。灰色粒子を多く含む。赤茶色ブロックを含む | 11 淡黄灰色粘質土 | 淡灰色粘質土混じる。赤茶色粒子を多く含む |
| 4 暗灰色粘質土 | あまり粘性のない暗黄茶色粘質土混じる。赤茶色ブロックを含む | 12 淡灰色粘質土 | 粘性は弱い。淡茶色粘質土混じる。黒色粒子を含む。赤茶色粒子を多く含む |
| 5 黒灰色粘質土 | 2よりやや濃い淡黄茶色ブロックを含む | 13 淡灰色粘質土 | やや茶色味がある赤茶色粒子を多く含む |
| 6 暗灰色粘質土 | 灰色粒子を非常に多く含む。赤茶色ブロックを含む。黒色粒子を少し含む | 14 淡灰色粘質土 | 12より粘性は強いが、暗茶色粘質土混じる。赤茶色粒子を含む。黒茶色粒子を多く含む |
| 7 暗灰色粘質土 | 灰茶色粘質土混じる。黒色粒子を含む。赤茶色粒子を含む。黒色粘 | 15 淡灰色粘質土 | 淡暗黄茶色粘質土混じる。赤茶色粒子を多く含む。黒茶色粒子を多く含む |
| 8 灰色粘質土 | やや黄色味がある黒色粒子を含む。少し淡色の灰色粘質土混じる | | |



1SD10

- | | |
|-----------|---|
| 1 淡灰茶色粘質土 | 暗黄茶色粘質土混じる。粘性は弱い。黒色粒子を多く含む。暗灰色粒子を含む。暗赤茶色小ブロックを多く含む |
| 2 暗灰色粘質土 | 淡灰茶色粘質土混じる。12よりやや粘性が強い。黒色粒子を多く含む。暗赤茶色小ブロックを多く含む |
| 3 暗灰色粘質土 | 2より茶色味を帯びている。砂質に近い。粘性は淡灰茶色粘質土混じる。黒色粒子を含む。暗赤茶色小ブロックを含む |
| 4 暗灰色粘質土 | 2に近い色調。淡灰茶色粘質土混じる。21に比べ粘性は弱い。黒色粒子。暗赤茶色小ブロックを多く含む |
| 5 暗黄灰色粘質土 | 暗灰色粘質土混じる。黒色粒子を含む。加が強い |
| 6 暗黄灰色粘質土 | 黒色粒子を少し含む。暗赤茶色小ブロックを含む |
| 7 暗黄灰色粘質土 | 径2-5mmの小礫・粗砂が混じる |
| 8 暗黄灰色粘質土 | 6より茶色を帯びている。帯状に炭化木細片を含んだ暗灰色粘質土と互層を成すように堆積する |
| 9 暗黄灰色粘質土 | 黒色粒子を含む。暗赤茶色小ブロックを含む |



Fig.9 久患権藤遺跡1SD05・10土層断面図(1:40)

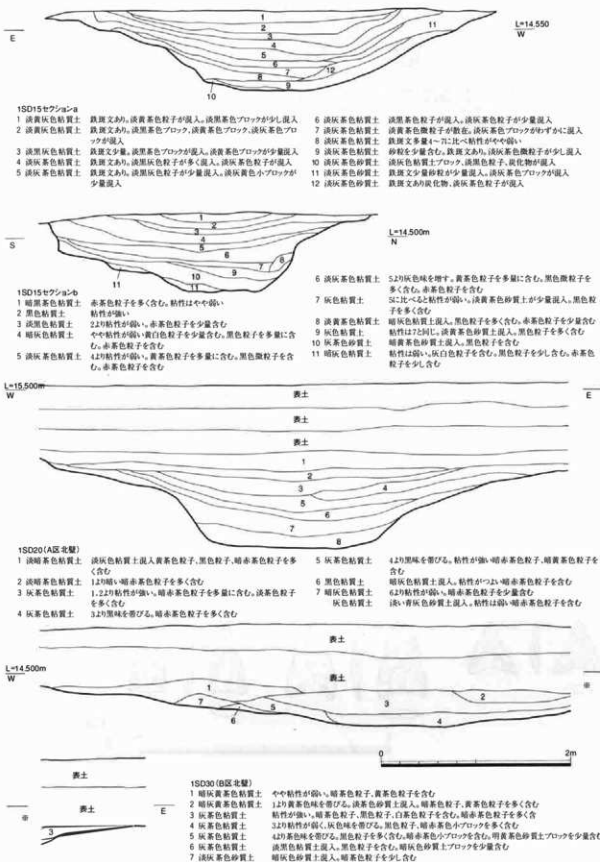


Fig.10 久恵権遺跡15D15・20・30土層断面図(1:40)

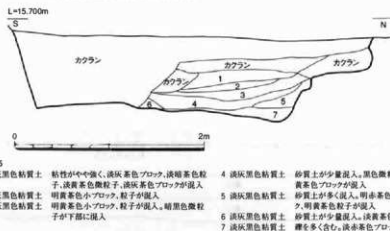
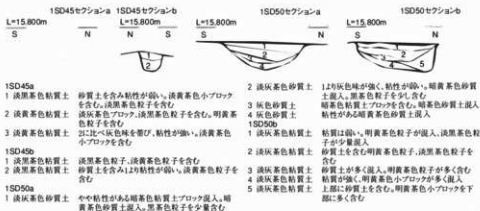


Fig.11 久恵権藤遺跡1SD45・50・55土層断面図(1:40)



Fig.13 久恵権堂遺跡出土石器(2:3)

2. 久恵中野遺跡 (第1次調査)

久恵中野遺跡は筑後市東南部、標高16m程の中段段丘上に位置する (Fig.2)。周囲には弥生から中世にかけての集落である久恵上川原遺跡、久恵川ノ上遺跡等が存在する。調査面積は約2,300㎡であり、調査は1996年1月5日～3月29日まで田中剛が担当して行った。

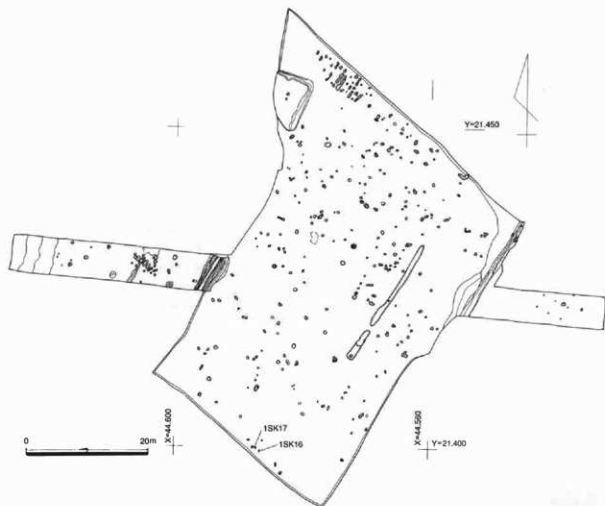


Fig.14 久恵中野遺跡A区全体図 (1:600)

(1) 検出遺構 (Fig.14～19)

A区

A区では、3条の溝、多数のピット、土坑を検出した。遺物はほとんどが表土からの出土であり、ここでは、特徴的な遺構である被熱した礫を伴う土坑について報告する。

土坑

1SK16 A区南部で検出した土坑で、径1.4m、深さ0.2mを測る。径約0.15mの被熱した礫からなる集石を伴う。遺物は出土しなかった。

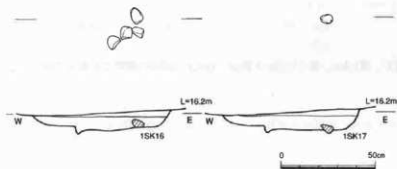


Fig.15 久恵中野遺跡A区1SK16・17平面・断面図 (1:20)

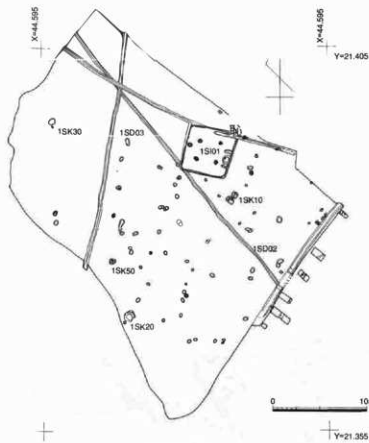


Fig.16 久惠中野遺跡B区全体図 (1:400)

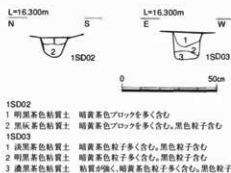


Fig.17 久惠中野遺跡B区1SD02・03土層断面図 (1:20)

1SK50 B区中央北側で検出した土坑で、径1.4m、深さ0.15mを測る。遺物は出土しなかった。

(2) 出土遺物 (Fig.20~27)

B区1SD02出土遺物 1は回転台使用の坏である。底部のみ残存し、残存高1.3cm、底部径5.8cmを測る。内面見込み部にはナデをおこない、底部には回転糸切り痕を残す。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微少な砂粒、雲母を含む。2は回転台使用の坏である。底部のみ1/2程度残存し、残存高1.6cm、底部復元径7.4cmを測る。内面見込み部にはナデをおこない、底部には回転糸切り痕を残す。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微少な砂粒を含む。3は摺鉢の口縁部であり残存高4.2cmを測る。内面には、摺目が確認でき、ナデをおこなう。

1SK17 A区南部で検出した土坑で、径1.45m、深さ0.25mを測る。遺物は出土しなかった。

B区

B区では、溝3条、住居址1棟、多数のピット、集石土坑4基を検出した。ピットからの遺物の出土はなく、住居址1棟を除いては建物などを構成する要素も窺えなかったため、ここでは溝と住居址、土坑について報告する。

溝

1SD02 B区内を北西-南東方向に走る溝であり、幅約0.25m、深さ約0.2mを測る。埋土は粘質土を主体とする。土師器坏、瓦質土器摺鉢を出土した。

1SD03 B区内を南北に走る溝であり、幅約0.25m、深さ約0.3mを測る。埋土は粘質土を主体とする。黒色土器碗を出土した。

住居址

1SI01 B区中央北側で検出した方形の住居址であり、一辺約5mを測る。四辺に幅0.15m前後の壁溝を廻らす。主柱穴は径0.4m前後を、それぞれの柱間隔は平均2.05mを測り、ほぼ正方形に並ぶ。東辺には壁に接して溝に画された土坑が存在する。竈の痕跡と考えられるが決定づける根拠を持たない。古墳時代に属する土師器を大量に出土した。

土坑

1SK10 B区東側で検出した土坑で、径1.6m、深さ0.4mを測る。径0.2~0.4mの被熱した集石を伴う。遺物は出土しなかった。

1SK20 B区南側で検出した土坑で、径2.4m、深さ0.4mを測る。径0.1~0.4mの被熱した集石を伴う。縄文土器片を出土した。

1SK30 B区東側で検出した土坑で、径1.4m、深さ0.2mを測る。径0.2~0.5mの被熱した集石を伴う。遺物は出土しなかった。

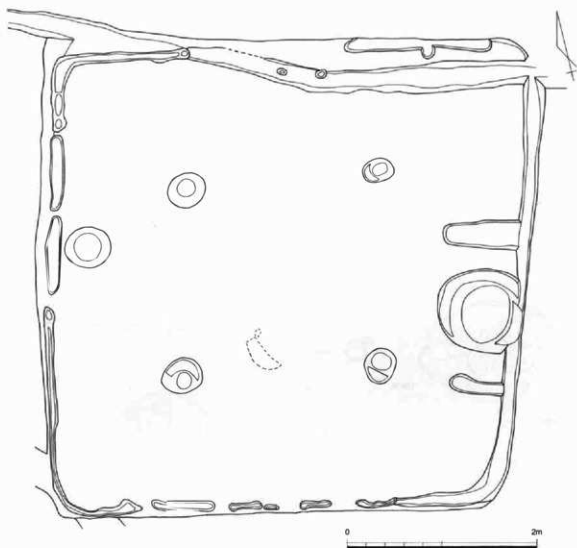


Fig.18 久恵中野遺跡B区1S101平面図(1:40)

外面にはケズリ、ナデをおこなう。口縁端部は僅かに窪み、面をもつ。淡灰褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微小な砂粒を含む。

B区1SD03出土遺物 黒色土器碗が出土した。内面のみ黒色処理をおこなうA類である。残存高4.0cm、高台径6.4cmをはかる。坏部には内外面ともにミガキをおこなう。高台にはナデをおこなう。内面は黒褐色、外面は淡橙褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微小なクサリ礫を含む。

B区1SK20出土遺物 縄文土器1点が出土した。外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデを行う。

B区1S101出土遺物 壺(1)、高坏(2~4)、器台(5)、鉢(6・7)、甕(8~11)縄文土器(12)が出土した。

1は壺の口縁部であり、口径10.0cm、残存高5.3cmを測る。口縁部は僅かに外反し、ほぼまっすぐに伸びる。端部を丸くおさめる。内面は口縁部にナデ、体部に板ナデをおこなう。外面は口縁部にタテハケ、ナデを、体部にタテハケをおこなう。淡黄橙色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径1mm程度の角閃石を含む。2は高坏である。坏部はほぼ完存、脚部は1/2程度残る。口径16.7cm、器高14.8cm、脚端部復元形12.0cmを測る。坏部は斜め上方にほぼまっすぐに伸び、口縁部で僅かに外反する。脚部は斜め下方にほぼまっすぐに伸び、端部をやや強く屈曲させる。坏部内面は横方向のハケ、外面はナデをおこない、脚部内面はケズリ、外面はタテハケ、ナデをおこなう。淡黄橙褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。3は高

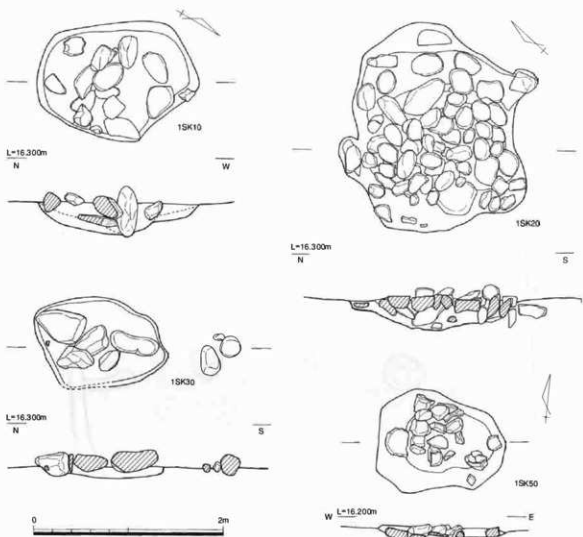


Fig.19 久恵中野遺跡B区1SK10・20・30平面・断面図(1:40)

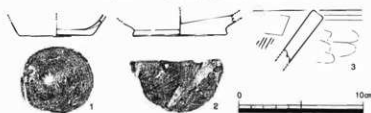


Fig.20 久恵中野遺跡B区1SD02出土土器(1:3)

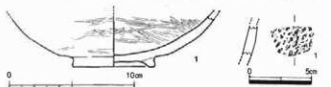


Fig.21 久恵中野遺跡B区1SD03出土土器(1:3)



Fig.22 久恵中野遺跡B区1SK20出土土器

坏の坏部である。口縁部のみほぼ完存し、口径18.0cm、残存高5.1cmを測る。口縁部は斜め上方にほぼまっすぐに伸び、端部を丸くおさめる。内面はナデ、外面はタテハケ、ナデをおこなう。明橙色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径1mm程度の角閃石を含む。4

は高坏の坏部、脚部の接合部であり、残存高3.7cmを測る。内外面の調整は風化のため不明である。明橙色を呈し、焼成は軟質である。胎土は密で、微小な砂粒を含む。5は器台脚部である。脚端部復元径11.0cm、残存高8.3cmを測る。脚部は斜め下方にはほぼまっすぐにのび、端部は丸くおさめる。内面は残存部の上半にケズリ、下半に粗い横方向のハケをおこない、外面には横方向のハケ、縦方向のナデをお

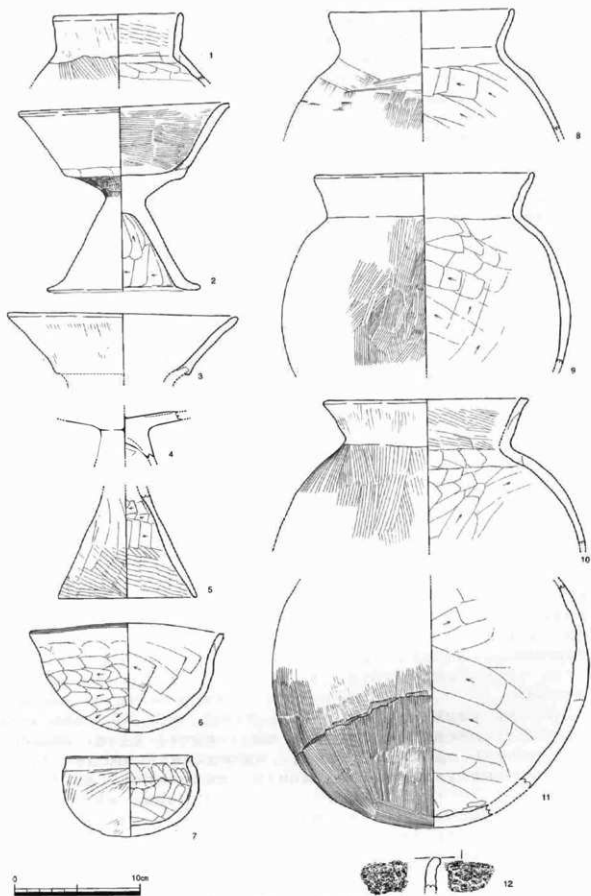


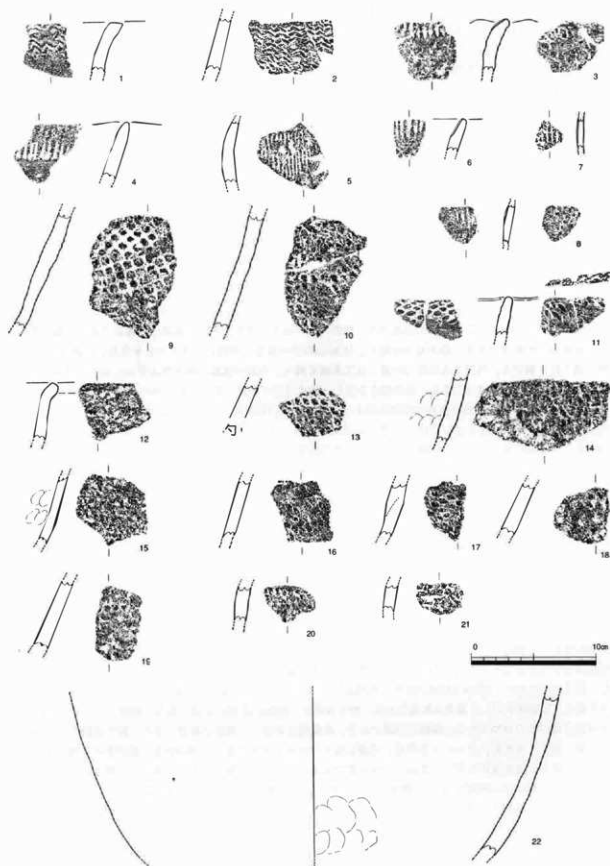
Fig.23 久惠中野遺跡B区1SI01出土土器 (1:3)

こなう。暗褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。6は完形の鉢である。口径15.2cm、器高8.7cmを測る。九底で、口縁部付近を僅かに外反させて、端部を丸くおさめる。内面には板ナデ、外面にはケズリをおこなう。外面には煤が付着する。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石を含む。焼け歪みによって平面楕円形を呈する。7は完形の鉢である。口径9.9cm、器高6.3cmを測る。九底で、口縁部は緩やかに彎まったのち僅かに外反する。内面にはユビオサエ、板ナデをおこない、外面にはハケ、ナデをおこなう。淡褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径1mm程度の角閃石、微小な砂粒を含む。8は壺である。口縁部から体部上半にかけて1/5程度残存する。復元口径14.6cm、残存高9.6cmを測る。口縁部はやや内湾しながら立ち上がる。内面にはケズリ、ナデをおこない、外面にはハケ、ナデをおこなう。淡褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径1mm程度の長石、角閃石を含む。9は壺である。口縁部から体部上半にかけて1/2程度残存する。復元口径17.2cm、残存高15.3cmを測る。口縁部は端部付近を僅かに内湾させて立ち上がる。内面には口縁部にナデ、体部にケズリをおこなう。外面には口縁部にナデ、体部にタテハケをおこなう。明赤褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径5mm以下の石英、長石、角閃石を含む。10は壺である。口縁部から体部上半を4/5程度残し、口径16.2cm、残存高11.6cmを測る。口縁部は僅かに外反しながら斜め上方にのび、端部は面をもつ。内面は口縁部にハケ、体部にケズリをおこない、外面は口縁部でタテハケ、ナデ、体部にタテハケをおこなう。淡黄褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径2mm程度の石英、長石、角閃石を含む。11は壺である、体部下半のみ3/5程度残存し、残存高19.4cmを測る。九底で、内面にケズリ、外面にハケをおこなう。暗褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は粗く、径2mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。12は内外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の口縁部である。暗褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石を含む。口縁部は端部をわずかに外側に屈曲させる。

表土出土の遺物

縄文土器 表土からは縄文土器および石器が多く出土している。1~22がA区出土、23~52がB区出土である。

1は口縁端部から内面口縁部付近に山形の押型文を持つ深鉢の破片である。黄褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の角閃石、チャートを含む。残存する内面の下半部にはユビオサエののちナデをおこなう。外面にはナデをおこなう。2は外面に山形の押型文を持つ深鉢の破片である。淡黄褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径5mm以下の石英、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエ、ナデをおこなう。3は口縁部内面に短沈線、外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の口縁部である。暗褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径3mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。口縁部内面の短沈線は1本の施文に際し工具を2度押し付けた痕跡が認められる。口縁部は緩やかな波状を呈する。残存する内面下半にはオサエ、ナデをおこなう。4は口縁部内面に短沈線をもつ深鉢の破片である。暗褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径2mm程度の石英、角閃石、チャートを含む。口縁部は緩やかな波状を呈する。残存する内面下半にはナデをおこなう。外面は摩滅のため調整等は不明である。5は外面に縦方向の沈線をもつ深鉢の破片である。暗褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm以下の石英、長石、チャートを含む。6は内面に短沈線、楕円形の押型文を持つ深鉢の口縁部である。暗褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。7は内面に短沈線をもつ深鉢の破片である。暗赤褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の角閃石、チャート、クサリ礫を含む。8は内面に短沈線、外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡黄褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。9は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡黄褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石を含む。内面にはオサエ、ナデをおこない、外面の押型文を施さない範囲にはオサエをおこなう。10は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。黄褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエ、ナデをおこなう。11は深鉢の口縁部であり、内外面、口縁端部に長楕円形の押型文をもつ。暗褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、角閃石、チャートを含む。内面の押型文をもたない部分にはナデをおこなう。12は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の口縁部である。暗褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、角閃石、チャートを含む。内面と口縁端部にはナデをおこなう。13は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗褐色を呈し、



久恵中野遺跡 区表土ほか出土縄文土器

焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエ、ナデをおこなう。14は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエ、ナデをおこなう。15は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエをおこなう。16は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。17は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径3mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。18は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエ、ナデをおこなう。19は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエ、ナデをおこなう。20は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。21は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、チャート、クサリ礫を含む。内面にはナデをおこなう。22は無文の体部破片である。黄橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径2mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエをおこない、外面調整は摩滅のため不明瞭である。23は口縁部内面、体部外面に山形の押型文をもつ深鉢の口縁部である。暗赤褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径3mm以下の長石、角閃石、チャートを含む。口縁部は外反し、端部を強く折り曲げる。外反する部位の外面には工具痕を残す。内面の体部にはオサエをおこなう。24は外面に山形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径8mm以下の石英、長石、角閃石を含む。25は深鉢の口縁部であり、内外面と口縁端部に山形の押型文をもつ。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm以下の長石、角閃石を含む。26は内面に短沈線、外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径4mm以下の長石、角閃石、チャートを含む。27は深鉢の口縁部で、内面に短沈線、外面に楕円形の押型文をもつ。淡褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。残存する内面下半部にはナデをおこなう。28は外面に山形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石を含む。内面にはナデをおこなう。29は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の体部下半の破片である。淡褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm以下の角閃石を含む。内面にはケズリをおこなう。30は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面調整は摩滅のため不明瞭である。31は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径5mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。32は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。33は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。34は内外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径2mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。35は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の口縁である。淡橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径2mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはエビオサエをおこなう。36は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、石英、長石、角閃石、チャートを含む。37は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。38は内外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径2mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。39は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。40は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の

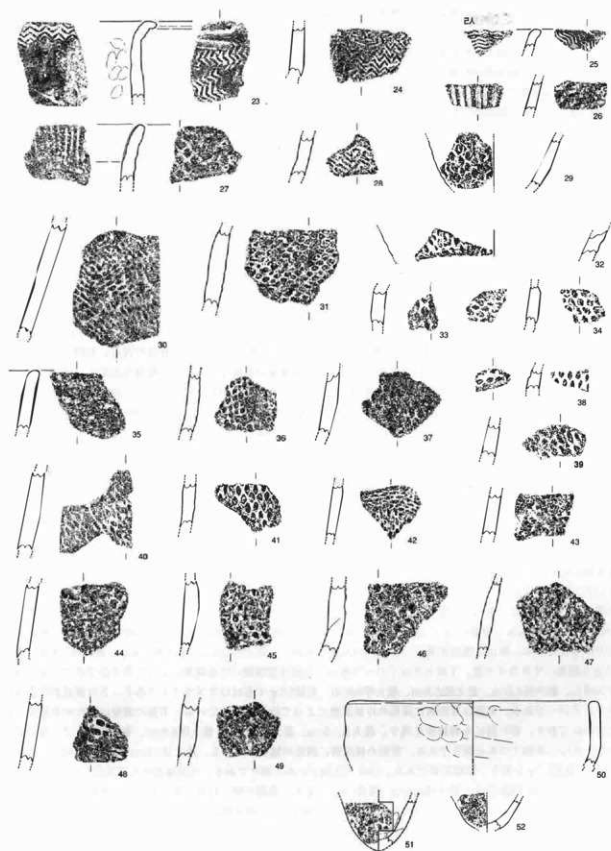


Fig.25 久恵中野遺跡B区表土ほか出土縄文土器 (1:3)

破片である。暗褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。41は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。42は外面に長楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。43は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土はやや粗く、径3mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。44は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径5mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはオサエ、ナデをおこなう。45は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径2mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。46は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。暗橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。47は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。48は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径3mm以下の石英、長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。49は外面に楕円形の押型文をもつ深鉢の破片である。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。50は無文の深鉢の破片である。復元口径19.6cm、残存高4.9cmを測る。淡橙褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土はやや粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。内面にはナデをおこなう。51は外面に押型文をもつ深鉢の底部付近である。暗褐色を呈し、焼成はやや軟質である。胎土は粗く、径1mm程度の長石、角閃石、チャートを含む。外面にはユビオサエの痕跡を残し、内面にはナデをおこなう。52は深鉢の底部付近であり、外面に押型文の痕跡がうかがわれるが、摩滅のため不明瞭である。暗橙褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土は粗く、径1mm以下の長石、角閃石、チャートを含む。尖底を呈すると考えられ、内面にはナデをおこなう。

石器 1~3はA区出土、4~11はB区出土、12は表土出土である。

1は凹基無蓋式の石鏃である。両面に調整を施し、逆刺は平らに仕上げられている。先端を欠損し、最大長1.9cm、最大幅2.2cm、最大厚0.4cm、重量1.6gを測る。黒曜石製。2は縦長の剥片である。剥片端部は丸みをおび、縞番剥離によって剥離された剥片であるといえる。最大長3.1cm、最大幅1.8cm、最大厚0.5cm、重量1.6gである。黒曜石製。3は二次加工ある剥片である。側縁に背面側からの加撃による調整を施す。自然面を有し最大長3.3cm、最大幅1.7cm、最大厚0.9cm、重量4.8gで、石材は黒曜石である。4は平基無蓋式の石鏃である。両面調整を施している。切先を欠損し、最大長1.9cm、最大幅1.5cm、最大厚0.4cm、重量1.1gで、石材は黒曜石である。5は凹基無蓋式の石鏃である。両面に調整を施し、逆刺は丸みをもたせるように仕上げられている。最大長1.9cm、最大幅1.8cm、最大厚0.4cm、重量0.8gで完形。黒曜石製。6は凹基無蓋式の石鏃である。両面調整を施し、逆刺は平に仕上げられている。風化・摩滅が著しい。逆刺の先端を欠損し、最大長1.5cm、最大幅1.5cm、最大厚0.3cm、重量0.5gを測る。サヌカイト製。7はスクレイパーである。刃部は背面側に片面調整によって作り出されている。背部を欠損し、最大長4.2cm、最大幅2.3cm、最大厚0.6cm、重量5.0gで石材はサヌカイトである。8は縦長剥片素材のスクレイパーである。刃部は背面側に深形の片面調整によって作り出されている。刃部の調整は剥片が欠損した後に行われており、折れ面にも剥離痕を残す。最大長3.6cm、最大幅5.6cm、最大厚0.8cm、重量17.1gで、頁岩製である。9は二次加工のある剥片である。背面の側縁側に調整が施されている。最大長2.7cm、最大幅1.6cm、最大厚0.3cm、重量1.1gを測り、黒曜石製である。10は二次加工のある剥片である。主剥離面から二次加工を加えている。最大長2.8cm、最大幅0.9cm、最大厚0.7cm、重量1.9gである。黒曜石製。11は石核である。打面転移を行い、不整剥片を剥離したことがうかがえる。最大長13.3cm、最大幅9.4cm、最大厚4.3cm、重量548.0g、凝灰岩製。12は二次加工のある剥片である。剥片は打点を有する切子打面からの加撃によって剥離し、腹面側に調整が施されている。最大長4.6cm、最大幅4.1cm、最大厚1.7cm、重量16.8gを測り、凝灰岩製。

(3) 小結

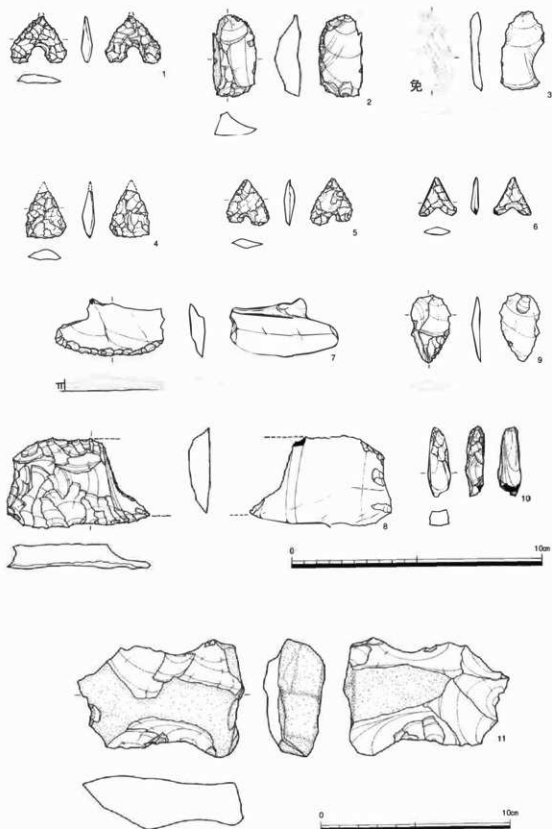


Fig.26 久恵中野遺跡A・B区表土出土石器 (2:3、11のみ1:2)

久恵中野遺跡では、検出遺構、出土遺物により、少なくとも縄文時代早期、古墳時代、中世の3時期の人間活動の痕跡が認められる。縄文時代早期の押型文土器を伴う集石土坑は炉である可能性が高く、古墳時代の住居、中世の溝などとともに、各時代における当該地での一過性ではない比較的長い期間にわたる生活痕跡が想定される。周辺地域の調査の進展により、将来より広範な居住域が確認される可能性が想定でき、本調査の意義は小さくないと考える。

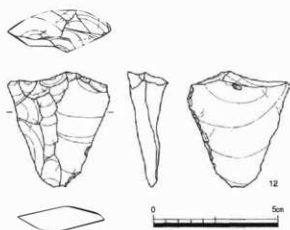


Fig.27 久恵中野遺跡表土出土石器 (2:3)

3. 久恵上川原遺跡 (第1次調査)

久恵上川原遺跡は筑後市東南部、標高16m程度の中段段丘上に位置する。報告の便宜上二つの調査区をA区、B区と呼称する (Fig.2)。調査面積は2,300㎡であり、調査はA区を田中剛、B区を大島真一郎が担当し、1996年1月5日～3月29日にかけて行った。

(1) 検出遺構 (Fig.28～32)

A区では流路2条、柵列 (波板状凹凸) 3列、土坑4基、落とし穴1基を検出し、B区では溝2条、土坑4基、住居1棟を検出した。

A区

柵列 (波板状凹凸面)

1SA35 A区北西部で検出した、ピットが整然と並ぶ遺構。久恵中野遺跡1SA14同様、調査段階では柵列として扱っていたため、本報告でもその呼称を踏襲するが、後述するようにおそらく道路関連遺構である波板状凹凸と考えられる。北西-南東方向へ伸びる柵列であり、調査区内では11基の柱穴と、並行する4基の柱穴を検出した。柱穴の間隔は平均で0.6mを測り、深さ10～20cmを測る。

1SA40 A区中央西よりで検出した、南北方向へ伸びる柵列であり、調査区内では31基の柱穴を確認した。柱穴の間隔は平均で0.8mを測る。

1SA45 A区南西部で検出した、南北方向へ伸びる柵列であり、調査区内では8基の柱穴を確認した。柱穴の間隔は平均で0.8mを測る。1SA40の南に方向を同じくして位置しており、間に柱穴が確認できなかったが、1SA40の延長である可能性もある。

流路

1SD05 A区東部で検出した流路であり、東北東-西南西方向に伸びる。調査区内での検出範囲では溝幅は不明である。埋

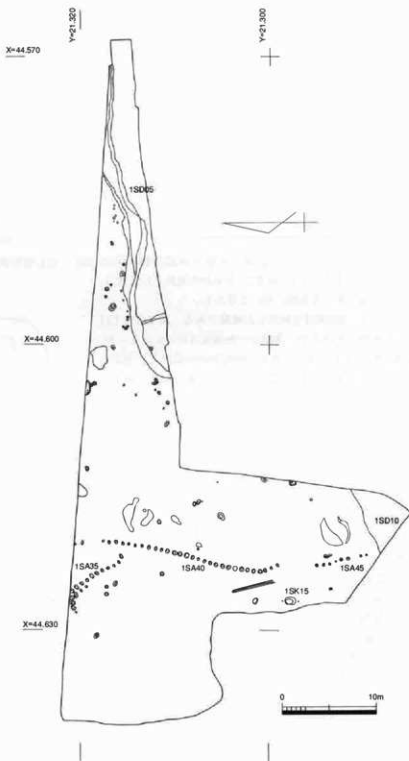


Fig.28 久恵上川原遺跡A区全体図 (1:400)

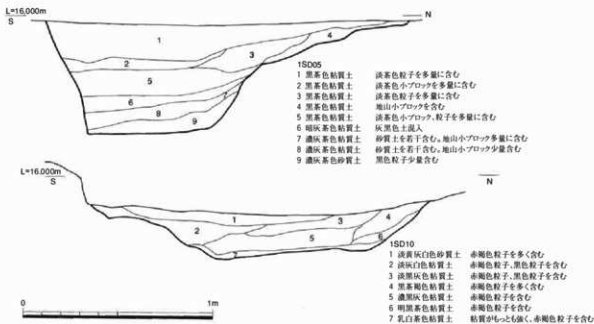


Fig.29 久恵上川原遺跡A区1SD05・10土層断面図(1:20)

土は粘質土を主体とする。後述の1SD10の延長上に位置し、同一の流路である可能性が高いと考える。

1SD10 A区南端で検出した流路である。調査区内では一部を検出したのみで、溝幅など全体像は明らかでないが、北側の肩のラインから、北東-南西方向に伸びると想定できる。埋土はおおむね上層で砂質土、下層で粘質土が主体となり、最下層の粘質土が最も粘性が強い。遺物は少なく、弥生土器燹片等が出土しているのみである。

落とし穴

1SK15 A区南半部西壁付近で検出した。隅丸長方形を呈し、長辺2.2m、短辺1.4m、深さ1.4mを測る土坑の底に、径0.15~0.4m、深さ0.1~0.45mの柱状の掘り込みを10基もつ。

B区

溝

1SD10 B区南半部で検出した、東西方向に走る溝である。幅約1m、深さ約0.3mを測る。埋土は粘質土を主体とし、土師器、黒曜石剥片、焼土塊が出土した。

1SD30 B区北東隅で検出した溝で、南北方向から東西方向へ直角に折れる。幅約1mを測る。土師器、青磁、国産陶器、楽付が出土した。

住居

1S120 B区南西部で検出した住居地で、一辺4.5mを測る方形の掘り方をもつ。溝1SD10に切られており、掘り方の柱穴に関する詳細は不明である。出土遺物は古墳時代の土師器のみであり、古墳時代の住居地である公算が高い。

土坑

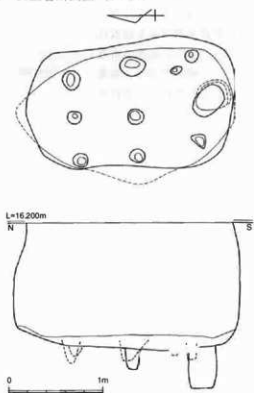


Fig.30 久恵上川原遺跡A区1SK15平面・断面図

1SK15 B区南東部で検出した円形の土坑で、径1.2m、深さ0.45mを測る。埋土は粘質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SK25 B区北部で検出した隅丸方形の土坑で、径1.2m、深さ0.35mを測る。遺物などは出土しなかった。

(2) 出土遺物 (Fig.33~38)

久患上川原遺跡で出土した遺物のうち、資料化が可能であった遺物について報告する。内訳はA区から出土した黒曜石製の石鏃未製品、剥片、サヌカイト製の剥片、凝灰岩製の砥石、縄文土器片、弥生土器甕、唐津焼碗、龍泉窯系青磁碗、土製品と、B区から出土した土師器皿、高坏、小型丸底壺、小型壺である。

A区表土出土遺物

1は外面に楕円形の押型文をもつ縄文土器深鉢の破片である。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径4mm以下の石

英、長石、角閃石を含む。摩滅のためそのほかの調整等は不明である。2は外面に楕円形の押型文をもつ縄文土器深鉢の破片である。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、径2mm程度の石英、長石、角閃石、クサリ礫を含む。3は唐津の碗である。底部付近のみが残る。残存高1.75cm、高台径4.7cmを測る。胎土は淡灰褐色を呈し、淡緑灰色の藁灰釉を施す。全面施釉後、高台端部周辺の釉を掻き取る。4は龍泉窯系青磁碗である。体部外面に線描きによる粗略な雷文帯をもち、青磁蓮弁文碗B群（小野1982）にあたるものと考えられる。14世紀末から15世紀初頭の所産と考えられる。

A区出土遺物

1SD10出土遺物 1は弥生土器甕である。底部付近のみを残し、残存高3.7cm、復元底部径12.8cmを測る。摩滅により内外面の調整は不明である。内面は灰褐色、外面は赤褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は粗く、0.5~3mm



Fig.31 久患上川原遺跡B区全体図 (1:400)

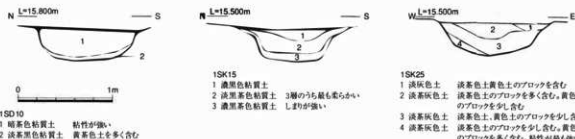


Fig.32 久患上川原遺跡B区SK15・25土層断面図 (1:40)

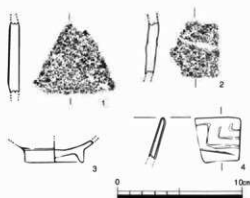


Fig.33 久恵上川原遺跡A区表土
出土遺物 (1:3)

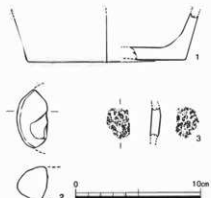


Fig.34 久恵上川原遺跡A区ISD10、
ISK15出土遺物 (1:3)

の砂粒を多く含む。

ISK15出土遺物 2は土製品である。残存長4.6cmを測る。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径1mm程度の長石、クサリ礫を含む。3は内外面に楕円形の押型文を持つ縄文土器深鉢の破片である。黄褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径2mm以下

の石英、長石、角閃石、クサリ礫を含む。

B区出土遺物

ISD10出土遺物 1~6は土師器皿、7は小型壺である。6のみ表土出土である。

1は口縁部から体部にかけて1/6程度残り、復元口径14.8cm、残存高3.1cmを測る。内面にはナデをおこなう。外面には口縁部付近に回転ナデ、体部に回転ヘラ切りをおこなう。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微細な石英、長石、角閃石、雲母、クサリ礫を含む。2は口縁部から体部にかけて1/8程度残り、復元口径16.2cm、残存高3.5cm、復元底径10.0cmを測る。内外面ともに一部黒斑をもつ。内面にはナデをおこない、外面には体部に回転ナデ、底部に回転糸切りをおこなう。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、極微細な雲母、クサリ礫を含む。3は全体の3/4程度が残り、口径15.2cm、器高3.4cm、底径8.0cmを測る。内外面の調整等は摩滅のため不明である。明黄褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径3mm以下のクサリ礫、極微細な雲母を含む。4は底部の大部分を欠損するが、体部から口縁部にかけてはほぼ完存する。復元口径15.4cm、残存器高3.5cm、復元底径8.5cmを測る。内面には回転ナデを施す。外面には体部上半に回転ナデ、体部下半から底部にかけて回転ヘラ切りをおこなう。灰褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で微細な石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。5は底部から体部にかけて1/2程度残り、残存高2.25cm、底径8.4cmを測る。内面にはナデ、外面には体部にナデ、底部に回転ヘラ切りの後ナデをおこなう。淡黄褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径2mm以下のクサリ礫、雲母を含む。6は土師器皿である。底部から体部下半にかけて1/6程度残り、残存高2.15cmを測る。体部内外面には回転台を用いたナデをおこなう。底部には回転糸切痕が残る。器壁は灰褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径1mm程度の石英、長石、クサリ礫、雲母を含む。7は口縁部を欠損するが、体部はほぼ完存し、残存高5.45cm、復元底径5.5cmを測る。内外面ともにナデをおこなう。内面底部付近には強いユビナデの痕跡が明瞭に残る。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径7mm以下のクサリ礫、極微細な雲母を含む。

ISD10出土土器 1~6は土師器高坏、7は小型丸底壺である。6のみ出土地不明である。

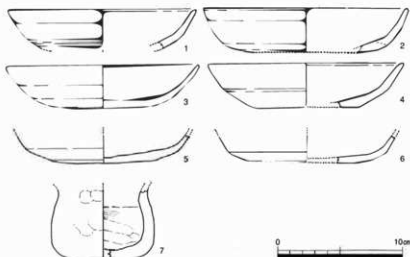


Fig.35 久恵上川原遺跡B区ISD10、表土出土土師器 (1:3)

1は脚部である。脚部の1/3程度を残し、残存高6.7cm、復元脚部径10.6cmを測る。脚部は緩やかな湾曲を持つ。内面には板状工具によるナデ、外面にはナデをおこなう。明黄橙色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径2mmの長石、クサリ礫、雲母を含む。2は脚部である。脚部部の1/4程度を残し、残存高2.4cm、脚部部復元径12.0cmを測る。脚部部は強い屈曲をもち、端部付近で厚みを増す。内面にはヘラケズリ、外面にはナデをおこなう。明黄橙褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微細な長石、雲母を含む。3は脚部である。脚部部の1/3程度を残し、残存高2.7cm、脚部部復元径11.4cmを測る。脚部部は強い屈曲をもち、内面にはヘラケ

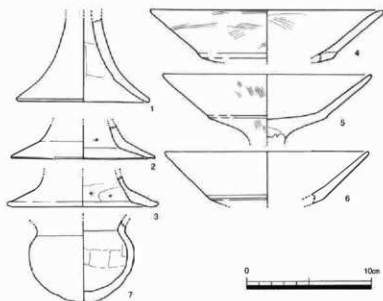


Fig.36 久恵上川原遺跡B区1SI20、出土地不明土師器 (1:3)

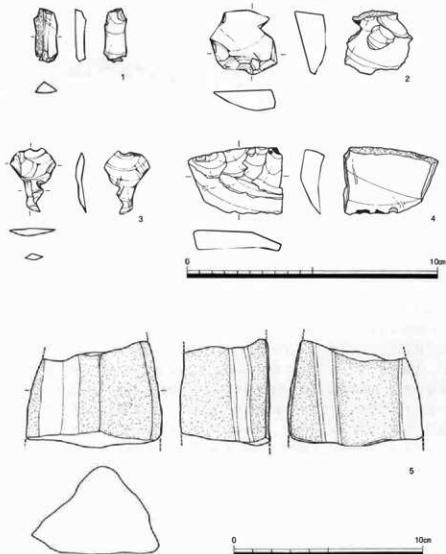


Fig.37 久恵上川原遺跡A区1SK15、出土地不明の石器 (2:3、5のみ1:2)

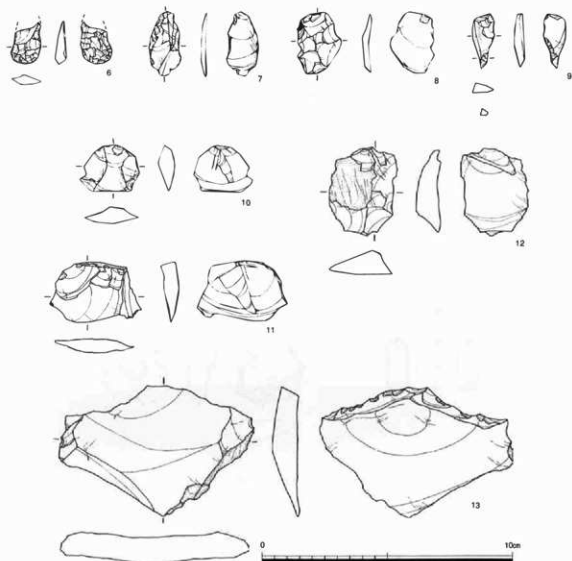


Fig.38 久恵上川原遺跡表土出土石器 (2:3)

ズリ、ナデをおこない、外面にはナデをおこなう。明褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径2mm程度の石英、長石、雲母を含む。4は坏部である。口縁部の1/3程度を残し、復元口径18.5cm、残存高4.15cmを測る。口縁部は斜め上方にはほぼまっすぐに伸び、端部で僅かに外反する。内面にはナデ、外面にはハケ、ナデをおこなう。明黄褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微細な石英、長石、雲母を含む。5は坏部である。坏部の1/4程度残存し、復元口径16.5cm、残存高5.1cmを測る。口縁部は斜め上方にはほぼまっすぐに伸び、端部を丸くおさめる。内面にはナデ、外面にはハケ、ナデをおこなう。灰褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、微細な石英、長石、角閃石、雲母を含む。6は坏部である。坏部上半のみを1/6弱残し、復元口径16.1cm、残存高4.2cmを測る。口縁部は斜め上方にまっすぐに伸び、端部を丸くおさめる。坏部上半には内外面とも回転台を用いたヨコナデを施す。黄褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径2mm以下のクサリ矽、極微細な雲母を含む。7は小型丸底甕である。口縁部を欠損するが、体部の2/3を残存し、残存高6.4cmを測る。内面にナデ、板ナデをおこない、外面にナデをおこなう。明黄褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は密で、径3mm以下の石英、長石、雲母を含む。

1SK15、表土出土石器 石器のみ一括して報告を行う。3・5は1SK15出土、その他は表土出土および出土地不明である。

1は縦長剥片である。自然面を有し、剥片の端部は折損する。最大長2.1cm、最大幅0.9cm、最大厚0.4cm、重量0.6g、石材は黒曜石である。2は剥片である。自然面を有し、バルブとバルブスカーが発達している。剥片の端部

に1箇所明確な打点を有する剥離痕があるが、それ以外に目立った調整は施されていない。風化が著しく、最大長2.5cm、最大幅2.7cm、最大厚0.9cm、重量6.0gを測る。黒曜石製。3はA区SK15出土の剥片である。打点を折損している。黒曜石製で、最大長2.5cm、最大幅1.8cm、最大厚0.3cm、重量0.8gである。4は二次加工ある剥片である。自然面から調整を加えている。サヌカイト製で、最大長2.7cm、最大幅3.7cm、最大厚0.8cm、重量10.4gである。5はA区SK15出土の砥石である。3面の砥面を有し、それぞれの面に溝状の窪みが1~2条確認できる。欠損しており、最大長5.6cm、最大幅7.2cm、最大厚4.7cm、重量215.0gで、凝灰岩製。6は平基無蓋式の石鏃である。基部を残して欠損しており、全体の形状は不明である。表土出土。最大長1.7cm、最大幅1.1cm、最大厚0.3cm、重量0.6gで、黒曜石製。7は剥片である。表土出土。最大長2.6cm、最大幅1.2cm、最大厚2.5cm、重量0.6gを測る。石材は黒曜石。8は剥片である。表土出土。最大長2.4cm、最大幅1.8cm、最大厚0.3cm、重量1.1g。サヌカイト製。9は二次加工のある剥片である。剥片の側縁から端部にかけて二次加工を施す。剥片頂部から側縁部中央にかけて腹面側からの調整が、中央から端部付近にかけては背面からの調整、端部には両面調整が施される。A区西側表土出土。最大長2.3cm、最大幅0.9cm、最大厚0.4cm、重量0.6g。黒曜石製。10は剥片である。平坦打面から加撃を加えて剥片を剥離している。バルブとバルブスカーが発達しており、剥片端部は丸く蝶番剥離によって剥離されたことが窺える。A区西側表土出土。黒曜石製で最大長1.9cm、最大幅2.3cm、最大厚0.7cm、重量2.2gを測る。11は剥片である。自然面から加撃を加えて剥片を剥離している。打点は明確で、バルブ・バルブスカーとも発達している。風化が著しい。A区西側表土出土。最大長3.7cm、最大幅2.4cm、最大厚0.6cm、重量4.9gで黒曜石製。12は剥片である。背面に自然面を有し、打点と端部を折損している。A区西側表土出土。最大長3.5cm、最大幅2.5cm、最大厚0.9cm、重量7.0g。石材は黒曜石。13は打面部に山形調整を施した後に横長剥片を剥離している。表裏にそれぞれネガティブな剥離面とポジティブな剥離面を有している。縁辺の一部は自然面であり、ネガティブな剥離面である底面を有している。他の縄文時代の石器と比較した際、打面を山形調整する例がないこと、他の縄文時代のサヌカイト製石器と比較して風化が著しいことから、旧石器時代の翼状剥片と考えられる。最大長5.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.3cm、重量40.5gを測る。サヌカイト製。

(3) 小結

久恵上川原遺跡では、B区の1SD10、1SI20、を除きまとまった遺物の出土がなく、評価が困難であるが、平安時代の土器を伴う溝である1SD10、古墳時代の土器を伴う住居である1SI20は、久恵中野遺跡で同様の組み合わせが確認されており、古墳時代、古代における周辺の土地利用を考える上で、示唆に富む状況であると考えられる。

4. 久恵東岸遺跡

久恵東岸遺跡は筑後市東南部の中段丘上、筑後市大字久恵字東岸に位置する。調査面積は500㎡であり、調査は大島真一郎が1996年1月5日～3月29日にかけて行った。

(1) 検出遺構 (Fig.39～42)

検出した遺構は、溝4条、土坑8基、ピット数基である。ピットには、明確に建物を構成するものが認められず、遺物なども出土しなかったため、ここでは溝と土坑について報告する。

溝

1SD30 調査区中央付近で検出した溝で、幅約0.6m、深さ約0.45mを測る。埋土は砂質土を主体とする。遺物は出土していない。

1SD55 調査区西側で検出した溝で、1SD60を切る。幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は粘質土を主体とする。埋土からは古式土師器の細片が少量出土している。

1SD60 調査区西側で検出した溝で、幅約0.45m、深さ約0.15mを測る。埋土は粘質土を主体とする。小型丸底甕、瓦質摺鉢、京焼風肥前磁器、焼土が出土した。

1SD75 調査区西側で検出した溝で、幅約0.8m、深さ約0.3mを測る。埋土は粘質土を主体とし、砂質土層の堆積が一部に認められる。古式土師器細片、黒曜石剥片、焼土を出土した。

土坑

1SK05 調査区東側で検出した。径1.3m、深さ0.5mを測る、円形の土坑である。埋土は粘質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SK10 調査区中央で検出した。径1.35m、深さ0.65mを測る、円形に近い土坑である。埋土は砂質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SK15 調査区東側で検出した。径1.5m、深さ0.4mを測る。周囲にピットが廻り、住居などの建物を構成していた可能性がある。

1SK25 調査区東側で検出した。径0.7m、深さ0.15mを測る、長楕円形の土坑である。埋土は粘質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SK35 調査区中央付近で検出した。調査区外に伸び、全形を把握し得ないが、幅2.4m、深さ0.45mを測る、溝状の土坑であると判断した。埋土は下層の粘質土、上層の砂質土の2層からなる。サヌカイト製の剥片が出土した。

1SK50 調査区中央付近で検出した。径0.9m、深さ0.5mを測る、楕円形の土坑である。埋土は砂質土を主体とする。遺物等は出土しなかった。

1SK65 調査区西側で検出した。径0.65m、深さ0.15mを測る、楕円形の土坑である。埋土は砂質土を主体とする。古式土師器片が出土した。

1SK70 調査区西側で検出した。一辺約3mを測る、方形の土坑であり、竪穴住居等の建物である可能性がある。方形のプラン以外には、柱穴の幾何学的な並びなどの、建物である蓋然性を高める要素に恵まれなかったため、ここでは土坑とした。

(2) 出土遺物 (Fig.42～43)

出土遺物としては、古式土師器、瓦器、白磁、国産陶磁器、染付、石器があるが、多くは小片であり、図化可能なもののみ報告する。

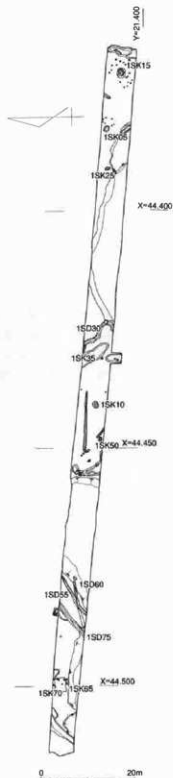


Fig.39 久恵東岸遺跡全体図 (1:800)

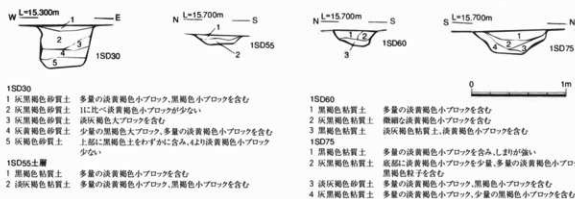


Fig.40 久惠東岸遺跡1SD30・55・60・75土層断面図 (1:40)

1SK35出土遺物 二次加工のある剥片(1)が出土した。剥片の側縁部に背面側から片縁調整を加えている。調整の施されている側縁とは反対側の側縁は折損している。最大長6.3cm、最大幅5.4cm、最大厚0.9cm、重量22.0gで、サヌカイト製。

1SD60出土遺物 京焼風肥前磁器(1)が出土した。口縁部から体部にかけて約1/4を残し、残存高4.6cm、復元口径8.4cmを測る。素地の土は乳白色を呈し、釉は透明に近い薄い褐色を呈する。

1SK65出土遺物 5は土師器高坏である。坏部はほぼ丸形で、残存高7.2cm、口径15.9cmを測る。坏部は下半部と上半部との境で内側に強く屈曲し、口縁部付近で外反して斜め上方へ伸びる。口縁端部は面をもたず、丸く収める。内面は不定方向のハケののち板状工具によるナデ、外面はタテハケののちナデをおこなう。色調は明橙色を呈し、焼成は良好である。胎土はやや粗く、石英、長石、チャート、クサリ礫を含む。

表土及び出土地不明の遺物

土師陶磁器が出土した。2は出土地不明の白磁の皿である。見込み部のみ約1/2程度残る。残存高1.3cmを測る。挟り高台を持つものと考えられる。素地の土は乳白色で、釉は透明に近い薄い褐色を呈する。3は土師器の椀である。高台から体部下半にかけて1/3程度残存し、残存高4.3cm、高台径6.4cmを測る。内外面調整は摩滅のため不明、高台は貼り付けである。明黄褐色を呈し、焼成は軟質である。胎土

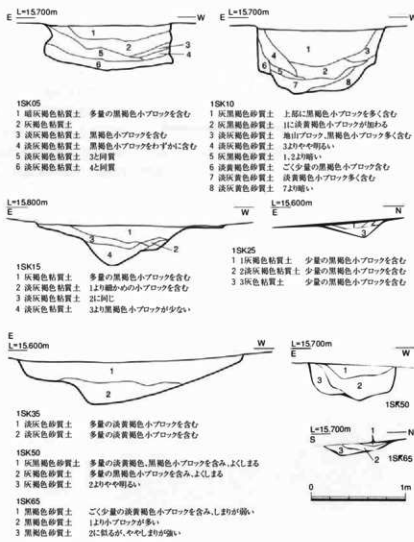


Fig.41 久惠東岸遺跡1SK5・10・15・25・35・50・65土層断面図 (1:40)

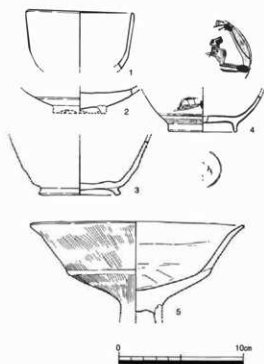


Fig.42 久恵東岸遺跡出土土器 (1:3)
 手続きとして適切ではない。周辺に位置する久恵川ノ上遺跡、久恵中野遺跡、久恵上川原遺跡などの成果を踏まえ、それらとの関連の中で最終的な評価を定める必要がある。

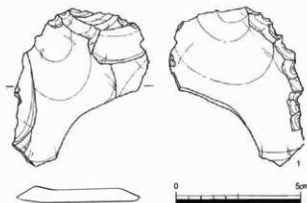


Fig.43 久恵東岸遺跡1SK35出土石器 (2:3)
 はやや粗く、微細な砂粒を含む。4は出土地不明の染付の碗である。高台部分を中心に全周の約1/3ほどが残る。残存高2.9cm、高台径5.2cmを測る。

(3) 小結

久恵東岸遺跡は、遺跡の評価を決定するような明確な遺構に恵まれず、また、遺物自体も非常に少量で、かつ时期的なまとまりをもたない。したがって当遺跡の調査成果のみをもとに評価を下すのは現状では非常に困難であり、また

IV. 総括

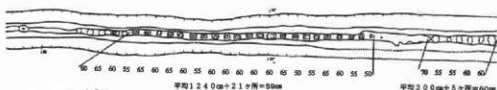
今回報告を行った遺跡は調査面積の割りに検出遺構、出土遺物ともに少なく、評価が難しい遺跡群である。そのような中でも、特徴的な遺構・遺物をもとに、若干の整理を行いたい。

1) 久恵権藤遺跡・久恵上川原遺跡検出の「櫛列」

今回の調査では久恵権藤遺跡B区、久恵上川原遺跡A区において、径30～50cm、深さ5～20cmのピットが40～60cm間隔で並ぶ遺構を検出した。当初櫛列と考え調査を行ったが、整理段階で次の点において櫛列と考えることが難しいことが判明した。まず、最大の要因はピットの間隔が狭い事と、その配置の異常さである。各ピットの心間隔は40～60cmであり、ここに仮に径10cmの杭を据えた場合、杭間の間隔はピット間40cmの場合30cmしかなくなる。このように厳重に設置している割には部分的に途切れる事は矛盾する事例である。部分的に削平を受けたという解釈もできないことはないが、消失する1つ手前のピットまでは深さ10cm程度を残している事から、やはり初めから存在していないと考えることが適当である。また、櫛をめぐらす割には区画される対象が不明である。猪垣等の耕地防壁施設、牧畜に関わる櫛列とする解釈も、櫛が途切れるという事実と整合しない。

ではこれらの遺構はどういった理解が可能であろうか。そこで類似遺構として最も近いものが、道路遺構の一つである波板状凹凸面である。これは道路遺構の路面もしくは路面以下に存在する遺構で、近江俊秀氏によると楕円形の浅い土坑が近接、もしくは一定の間隔を保ちながら並ぶもの、楕円形ではあるが両端の凹部の窪みが顕著で、断面形態が緩やかなW字状となるもの、円形の浅い窪みが近接もしくは一定の間隔で並ぶもの、不整形の土坑が不規則に並ぶもの、一定の間隔で土坑が並ぶが場所によっては土坑の形態が不定形なものがあるとの事である(近江

宮崎県大岩田村/新遺跡



宮崎県大岩田村/新遺跡



宮崎県並木添遺跡



熊本県塚原遺跡



Fig.44 各地の波板状凸凹面(東2002より)

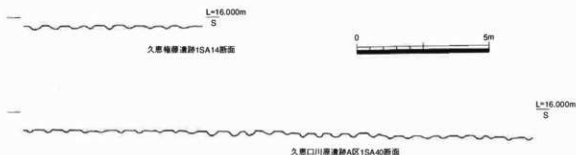


Fig.45 久恵権藤遺跡、久恵上川原遺跡検出の道路上遺構断面図(1:140)

1995)。以下各地で検出されている事例と比較してみると、ピット規模・間隔、同じ道路内で途切れる部分が見られる、という点において強い類似性を指摘できる。周辺に開発すべき対象が見られないことも、道路遺構であれば説明がつく。調査段階では作業期間の都合上、断面図や土層観察を行うことができず、またベース土の観察もできなかった事から、遺構論としてはこれ以上の再検討ができないが、これからの調査の一助とすべく、レベル図より起こした断面図を掲載しておく。これらの遺構は現在のところ道路構築の際の基礎工事痕跡であるという意見や路面使用時の枕木などの痕跡、洪水などの際に自然にできたものという意見がある。また、近年東和幸氏により牛馬の歩行痕跡であるという意見が出され注目を集めている(東2002)。これら遺構の機能の問題も含め、今後断面観察をはじめとする詳細な情報獲得が望まれる。

2) 縄文時代の土器、遺構

久恵中野遺跡、久恵上川原遺跡からは、屋外炉と考えられる集石土坑、落とし穴といった遺構と、比較的まとまった量の押型文をもつ縄文土器深鉢片が確認された。筑後市周辺でのこれまでの調査成果を勘案すると、明らかに縄文時代に属すると考えられるこれらの遺構がありながら、出土した縄文時代の土器はほとんどが残念ながら遺構に伴うものでないため、これらの遺構と遺物をセットとして捉えることには躊躇を覚えざるを得ない。しかしながら、出土している土器は概ね早水台～田村式の段階にあたるものにまとなり、その前後の縄文時代の土器が現状で確認されていないことから、状況証拠的に集石土坑、落とし穴も縄文時代早期のものとして大過ないとする。これらの条件的制約を念頭に置いたうえで、現状でなしうる評価を考える。集石土坑と、落とし穴が有機的な関連をもち、押型文土器を出土する遺跡として状況がある程度わかるものに、筑後市内では裏山遺跡と、岸添遺跡の例があげられる。裏山遺跡における土器、石器、屋外炉跡、鶴田岸添遺跡における落とし穴の存在から富永直樹は生活圏と狩猟採集圏の有機的な関連を想定している(富永1997)。久恵中野遺跡と久恵上川原遺跡において看取される状況も、積極的に断定するに足る調査成果に恵まれないが、同様の想定をする余地が十分にあると考える。つまり、生活圏として、土器、石器、屋外炉としての集石土坑をもつ久恵中野遺跡が存在し、そこに居住する集団のキャッチメントエリアとして、落とし穴をもつ久恵上川原遺跡が捉えられるのである。こうした想定は是非については、周辺地域の緻密な調査成果の蓄積により、より具体的な検討が可能となると考えるが、筑後地方における縄文時代早期の生活形態について、将来的に当地域が大きな知見をもたらす可能性は高いといえる。

3) 土師器

久恵中野遺跡SI01、久恵上川原遺跡SI20から古墳時代の土師器が一括で出土した。このうち久恵中野遺跡SI01から出土した土師器は、直口壺、高坏、鉢、器台、甕が、セットで出土する良好な資料である。それぞれの特徴は柳田康雄のIIIa式に相当するもので(柳田1998)、非常に凝集性の高い資料と言える。これらの資料を出土した住居が造り付けの竈をもつことも重要である。柳田によると、IIIa式の時期は4世紀後半にあたり、陶質土器の模倣品が

共存する事例が知られている。久恵中野遺跡1SI01は瓶自体の出土がなく積極的な根拠を欠くが、日本列島で造り付け産が広く普及する最初期の一事例として評価できる余地があると考える。

4) 久恵上川原遺跡表土出土旧石器

今回の調査では、久恵上川原遺跡A区表土(西側)より1点の翼状剥片が出土した。これは底面がネガティブな剥離面で縁辺の一部に自然面をとどめるなど二上山北麓の遺跡群で確認されている翼状剥片の諸属性とは異なっている点もあるが、属性の一部を欠く翼状剥片は二上山北麓でも少数ながら確認されており、地域的な変容とはいえない。

九州ではこれまでに筑後平野北部において国府型ナイフ形石器の分布が知られており、瀬戸内技法の九州への伝播が確認されている(松藤1983)。九州の国府型ナイフ形石器の分布域をみると、筑後平野を中心とした筑後川流域と大分県の大野川中流域とに集中する傾向をみせているといえる。今回の資料は瀬戸内技法の第二工程を示すものであり、当地域で国府型ナイフ形石器の製作が行われた可能性を指摘することができる。今後当地域で瀬戸内技法の存在を示す良好な石器群の検出が望まれる。

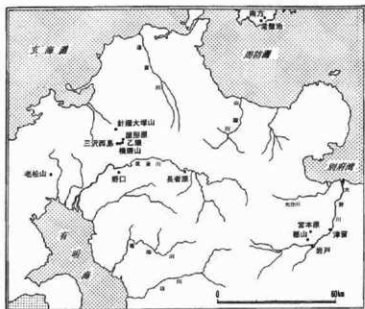


Fig.46 北部九州および東九州における横割ぎナイフ形石器の出土遺跡(松藤1983より)

【註】

(1) これら波板上凹凸面の機能論を含めた研究史の整理は、先述の近江氏の論考や、山村信榮氏の論考(山村2000『古代道路の構造』『古代交通研究』第10号 p.85-96 古代交通研究会)に詳しい。

〈参考文献〉

- 東和幸 2002『波板状凹凸面に関する第三の見解』『犬飼徹夫先生古希記念論文集 四国とその周辺の考古学』p.587-604 大妻徹夫先生古希記念論文集刊行会
- 近江俊秀 1995『道路遺構の構造—波板状凹凸面を中心として—』『古代文化』第47巻第4号 P.185-198 財団法人古代学協会
- 富永直樹 1997『縄文時代』『筑後市史 第一巻』p.135-170 筑後市
- 松藤和人 1983『筑後平野北部の国府型ナイフ形石器』『旧石器考古学』27 p.1-11
- 柳田南雄 1998『九州』『古墳時代の研究 第6巻 土師器と須恵器』p.34-47 雄山閣出版
- 山村信榮 2000『古代道路の構造』『古代交通研究』第10号 p.85-96 古代交通研究会

Tab.01 筑後東部地区遺跡群出土遺物一覧表(1)

久惠権藤遺跡第1次

表土

種別	器種
石器	石鏃

1S D-15 2層

種別	器種
石器	石器

1S D-55 上層(中層と接合)

種別	器種
瓦器	椀

1S D-55 中層(上層と接合)

種別	器種
瓦器	椀

1S D-55 中層

種別	器種
弥生土器	埴輪部
瓦器	椀(12c代)

久惠権藤遺跡第2次

1S D-60

種別	器種
石器	石鏃

久惠中野遺跡

A区

表土・造成土

種別	器種
縄文土器	押型文
土師器	細片
瓦器	細片
甕磁	椀(輸入)
白磁	皿(輸入)
国産陶器	細片
染付	細片・肥前焼
石器	黒曜石石器・黒曜石割片・サマカイト割片・黒曜石スレイバー・黒曜石(二次加工のある割片)

S-4

種別	器種
土師器	細片・椀・埴
黒色土器	椀
石器	黒曜石割片

S-6

種別	器種
土師器	細片

S-10(住居)

種別	器種
土師器	椀

S-11

種別	器種
縄文土器	押型文
石器	焼石

S-12(炉)

種別	器種
石器	伊の石材(焼石)

S-13(炉)

種別	器種
石器	伊の石材(焼石)

S-14

種別	器種
石器	焼石

S-15

種別	器種
縄文土器	押型文
石器	焼石

S-16

種別	器種
石器	焼石?・黒曜石割片

S-17

種別	器種
縄文土器	細片

S-18

種別	器種
縄文土器	細片

S-19

種別	器種
縄文土器	細片

1S K-20

種別	器種
縄文土器	押型文

S-22

種別	器種
縄文土器	細片

S-23

種別	器種
縄文土器	細片

B区

表層・排土

種別	器種
縄文土器	押型文
古式土師器	埴・壺
土師器	高杯・皿(13c)・皿・細片
白磁	椀(国産)
国産陶器	椀(内ノ山)・椀(鹿津)・皿(鹿津)・椀(鹿津不明)
染付	伊万里・京焼・プリント
その他	焼土
石器	サマカイト割片・黒炭岩(二次加工のある割片)・サマカイト(二次加工のある割片)
瓦類	1片
金属製品	鉄釘

Tab.02 筑後東部地区遺跡群出土遺物一覧表 (2)

P 1

種別	器種
縄文土器	押型文底部

P 2

種別	器種
縄文土器	細片

P 3

種別	器種
縄文土器	細片

P 4

種別	器種
縄文土器	細片

1S I-01(C・02・03)

種別	器種
古式土師器	高杯(3)・壺(4)・鉢(2)・器台・壺
石器	黒曜石割片

1S I-01a

種別	器種
縄文土器	細片

1S I-01b

種別	器種
土師器	鉢

1S I-01 周溝

種別	器種

1S I-01-3

種別	器種
古式土師器	高杯

1S D-02 2層

種別	器種
土師器	杯
黒色土器	3種壺
瓦器	瓦質すり鉢

1S D-02 層位不明

種別	器種
古式土師器	壺
土師器	杯
白磁	皿

1S D-03

種別	器種
古式土師器	細片
黒色土器	検(11c)

1S D-04 7層

種別	器種
縄文土器	細片

1S K-10

種別	器種
古式土師器	細片

久惠上川原遺跡

A区

表土

種別	器種
縄文土器	押型文
弥生土器	壺・細片・大型壺
土師器	不明(1)・高杯・検
青磁	肥後京検
白磁	検(2)
青白磁	検(15c)
国産陶器	すり鉢・唐津
染付	検
石器	チャート片(石器ではない)・サヌカイト割片(貫状?)・サヌカイト割片少々・黒曜石(割片、コア、チップ)・サヌカイト(二次加工のある割片)・石英片・凝灰岩割片

S-05

種別	器種
土師器	器種不明

S-05 1層

種別	器種
古式土師器	細片

S-05 (東壁)

種別	器種
古式土師器	器種不明
土師器	皿
青磁	肥後京
国産陶器	唐津

1S D-05 (溝)

種別	器種
古式土師器	壺

1S D-10

種別	器種
弥生土器	壺

S-11

種別	器種
石器	黒曜石割片

S-12

種別	器種
古式土師器	細片
石器	サヌカイト割片・黒曜石割片・焼石

S-14

種別	器種
石器	黒曜石割片

1S K-15

種別	器種
縄文土器	押型文
石器	黒曜石(割片、チップ)・石材不明割片・すり石
土製品	不明土製品

S-16

種別	器種
石器	黒曜石割片・凝灰岩割片

Tab.03 筑後東部地区遺跡群出土遺物一覧表 (3)

S-17

種別	器種
縄文土器	深鉢?
石器	サヌカイト削片

S-18

種別	器種
土師器	細片

S-19

種別	器種
土師器	細片
石器	黒曜石削片

S-20

種別	器種
古式土師器	細片
須恵器	杯B
甕	鹿角京 (細蓮弁)
国産陶器	唐津・京焼写
染付	伊万里

S-22

種別	器種
石器	サヌカイト削片・黒曜石削片

S-24

種別	器種
古式土師器	細片

S-25

種別	器種
古式土師器	不明
石器	凝灰岩削片

S-26

種別	器種
石器	黒曜石削片

S-27

種別	器種
土師器	細片
石器	凝灰岩削片

S-28

種別	器種
土師器	器種不明
石器	サヌカイトチップ
その他	焼土

B区

表土	
種別	器種
縄文土器	押型文?細片 (2以上)
土師器	杯(2)
石器	黒曜石削片・サヌカイト削片
その他	焼土

包含層

種別	器種
土師器	壺・高杯・小型壺・器種不明
国産陶器	鉢

1SD-10

種別	器種
古式土師器	高杯・壺・手づくね・器種不明
土師器	皿
石器	黒曜石 (二次加工ある削片)
金属製品	鉄釘
その他	焼土

1SI-20

種別	器種
古式土師器	高杯・小型壺・壺

1SD-30

種別	器種
古式土師器	壺か壺・細片
甕	鹿角京
国産陶器	鉢
染付	遠夜見

久惠東岸遺跡

表土・排土

種別	器種
土師器	壺
国産陶器	鉢
染付	梅
石器	黒曜石削片
その他	焼土

S-01

種別	器種
古式土師器	細片

S-02

種別	器種
古式土師器	細片

S-35

種別	器種
石器	スクレイパー・削片

S-35 1層

種別	器種
古式土師器	細片

S-35 2層

種別	器種
古式土師器	細片

S-55

種別	器種
古式土師器	細片

筑後東部地区遺群郡出土遺物一覧表

S-60

種別	器種
古式土師器	小型丸底壺
瓦器	燈鉢
国産陶器	京焼風肥前
その他	焼土

S-65

種別	器種
古式土師器	杯

S-65 3層

種別	器種
古式土師器	高杯

S-70

種別	器種
古式土師器	燵片
その他	焼土

1S D-75

種別	器種
古式土師器	燵片
石器	黒曜石剥片
その他	焼土

S-80

種別	器種
古式土師器	燵片
石器	黒曜石剥片

S-95

種別	器種
土師器	杯、甕
白磁	国産品
国産陶器	土管
その他	焼土

写真図版

遺物写真に付した数字は
Fig.番号—遺物番号
の順である。



久恵権藤遺跡1SD01北壁（南から）



久恵権藤遺跡1SD05完掘（北から）

Pla.2



久恵権藤遺跡1SD15拡張前（東から）



久恵権藤遺跡1SD20完掘（北から）



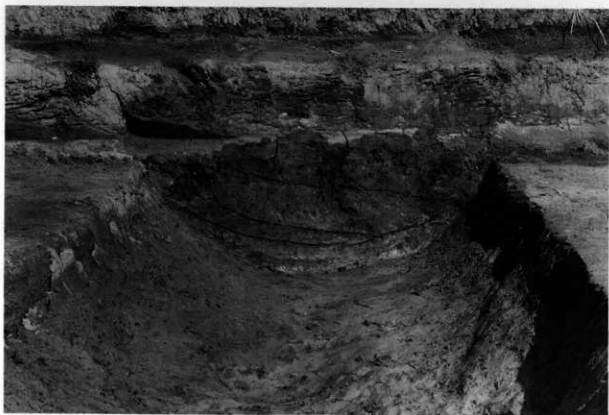
久恵権藤遺跡1SD30北壁（南から）



久恵権藤遺跡1SD30完掘（南東から）



久患権藤遺跡1SD45セクション（西から）



久患権藤遺跡1SD50セクション（西から）



久恵権藤遺跡1SD55セクション（東から）



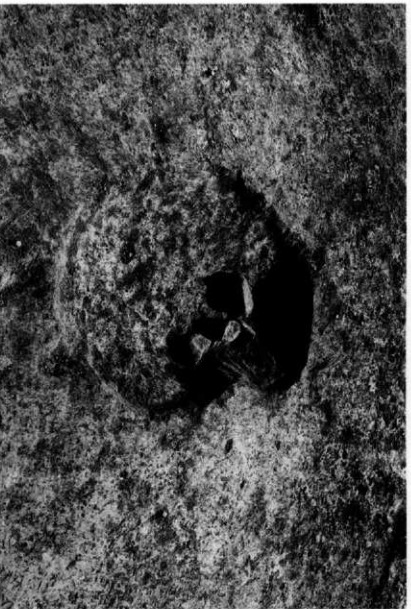
久恵権藤遺跡拡張前全景（南から）

久志権藤道路B区全景(上が北)



久志権藤道路B区東側、C区全景(東から)





久慈中野遺跡A区ISK16空堀 (西から)



久慈中野遺跡A区ISK17空堀 (西から)



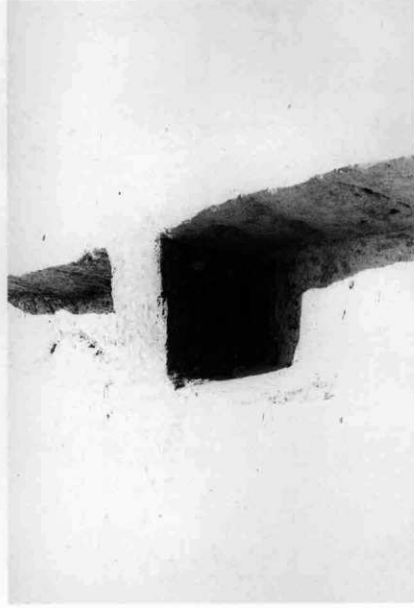
久恵中野遺跡A区遠景（北から）



久恵中野遺跡A区全景（上が東）



久恵中野遺跡B区(SD02)セクション(北から)



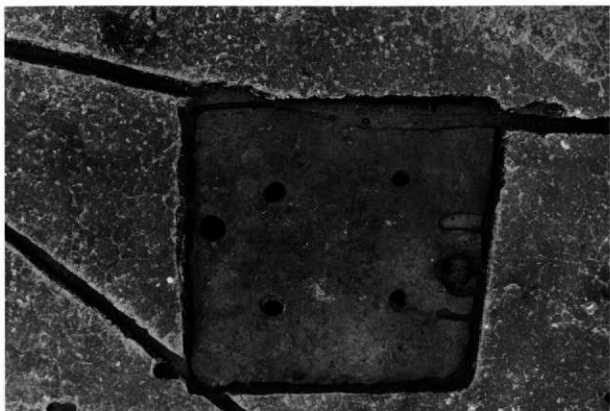
久恵中野遺跡B区(SD03)セクション(北から)



久惠中野遺跡B区ISK20完掘（北から）



久惠中野遺跡B区ISK30完掘（北から）



久恵中野遺跡B区IS101完掘（上が北）



久恵中野遺跡B区遠景（東から）

Pla.12



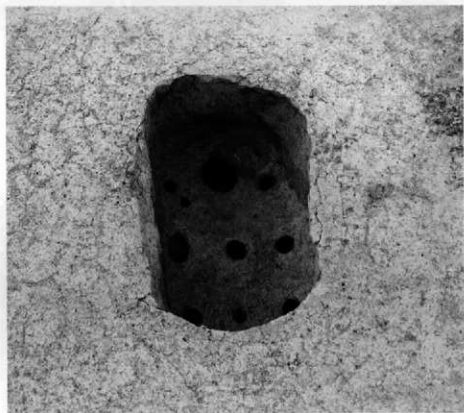
久恵中野遺跡B区全体（上が西）



久恵上川原遺跡A区ISA35完掘（東から）



久恵上川原遺跡A区1SA40完掘（北から）



久恵上川原遺跡A区1SK15完掘（東から）

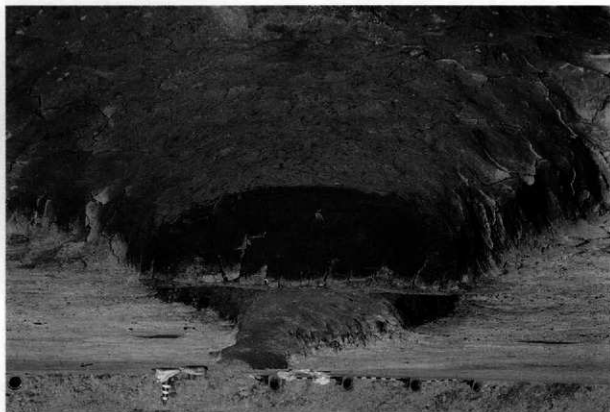


久恵上川原遺跡A区遠景（北から）



久恵上川原遺跡A区全体（上が南）

久慈上川原遺跡B区ISD10セクション(西から)

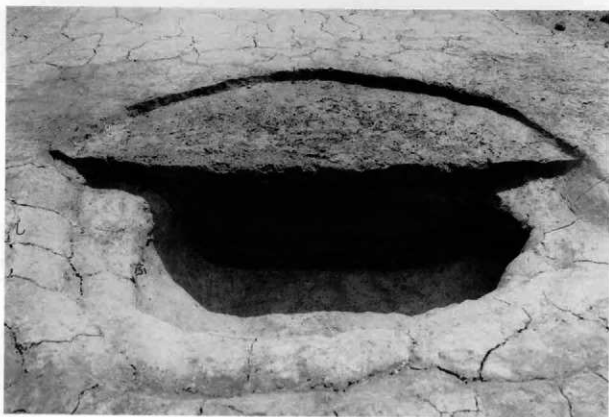


久慈上川原遺跡A区中央部(北から)





久患上川原遺跡B区1S121 (上が東)



久患上川原遺跡B区1SK15セクション (西から)



久恵上川原遺跡1SK25セクション



久恵上川原遺跡B区全体（上が北）



久恵東岸遺跡1SD30セクション (南から)



久恵東岸遺跡1SD30、1SK35完備 (北から)



久恵東岸遺跡ISD55セクション（西から）



久恵東岸遺跡ISD60セクション（南から）



久恵東岸遺跡1SD75セクション（北から）



久恵東岸遺跡1SD55、1SD60、1SD75完掘（南から）



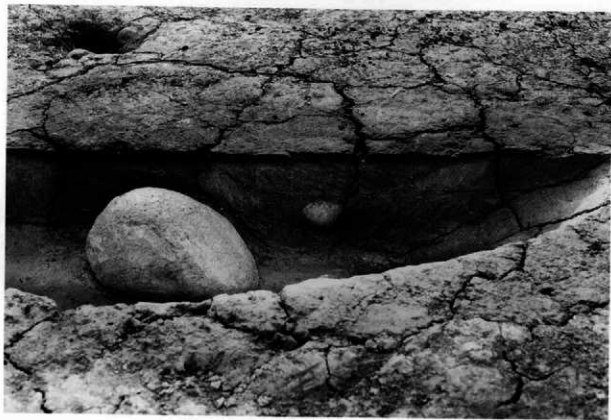
久恵東岸遺跡ISK05セクション (北から)



久恵東岸遺跡ISK10セクション (北から)



久患東岸遺跡ISK15セクション (北から)



久患東岸遺跡ISK25セクション (東から)



久忠東岸遺跡ISK50セクション (北から)



久忠東岸遺跡ISK65セクション



久恵東岸遺跡1SK70完掘（西から）



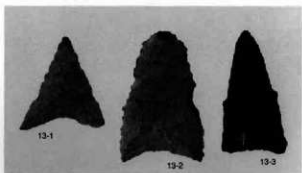
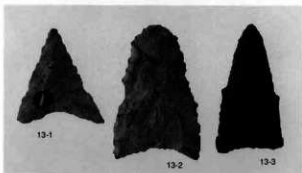
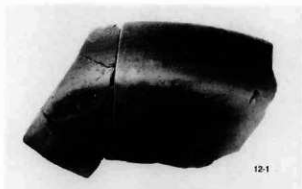
久恵東岸遺跡調査区全景（東から）



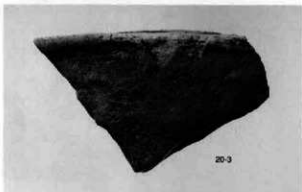
久恵東岸遺跡調査区東部全景（上が北）



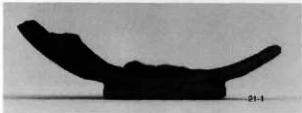
久恵東岸遺跡調査区西部全景（上が南）



久志権藤遺跡出土遺物

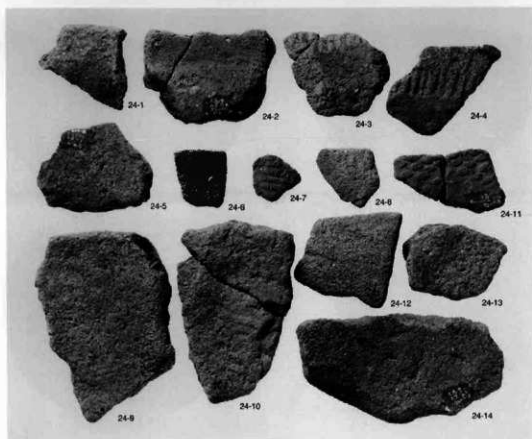
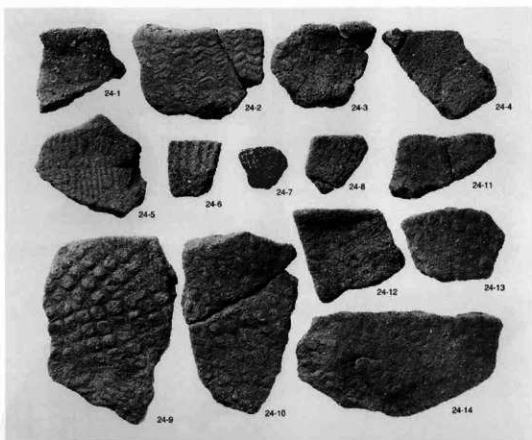


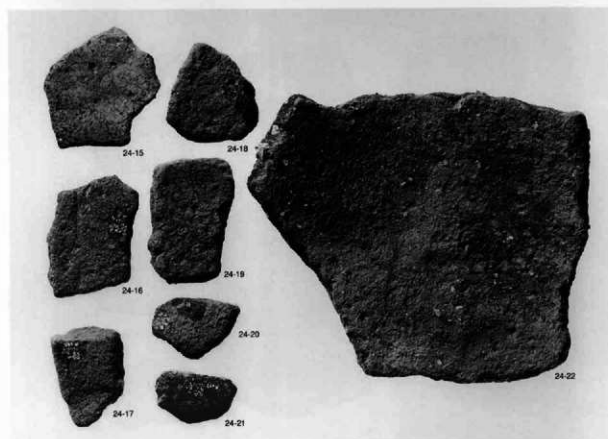
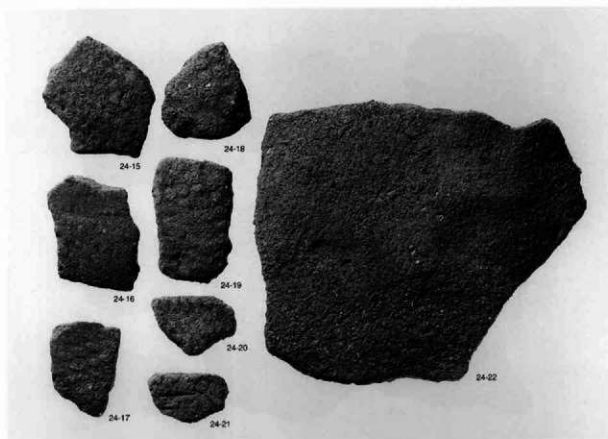
久志中野遺跡B区1SD02出土遺物



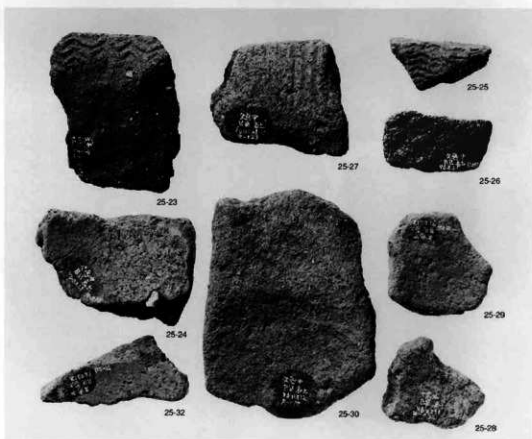
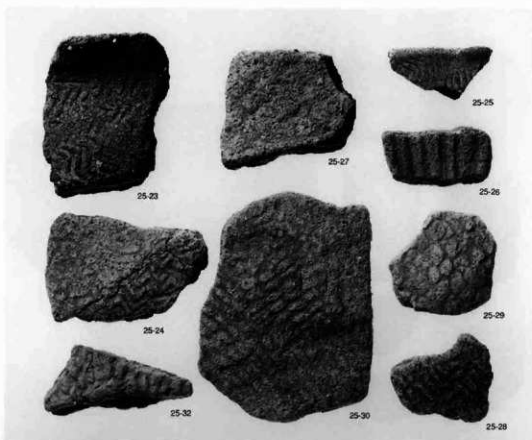
久志中野遺跡B区1SD03出土遺物



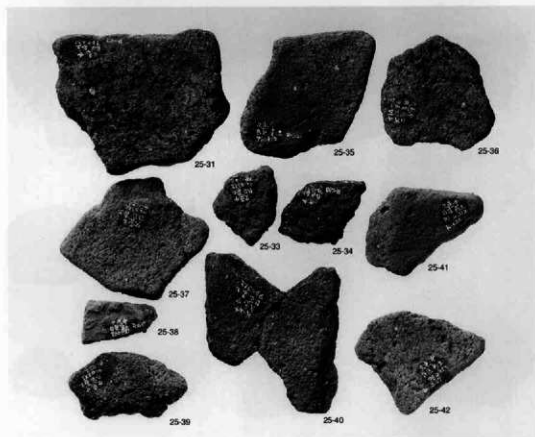
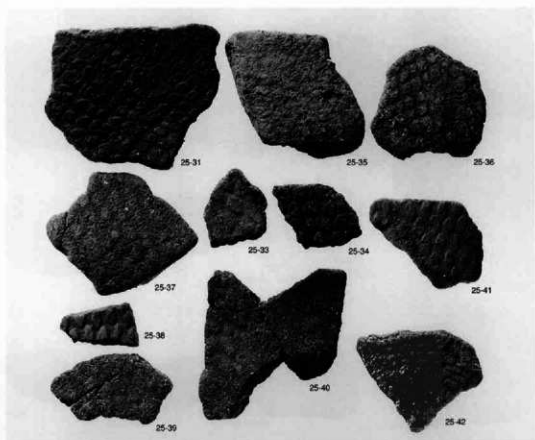


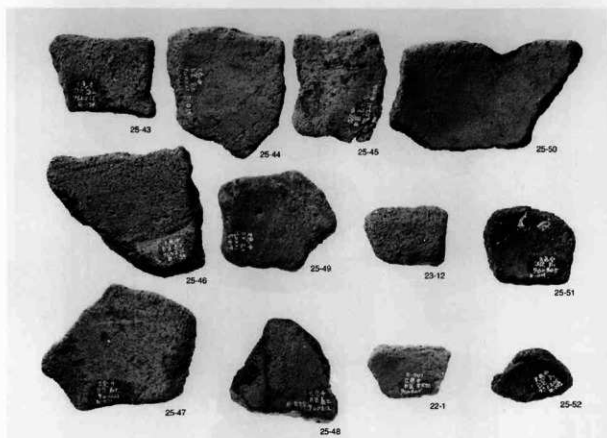
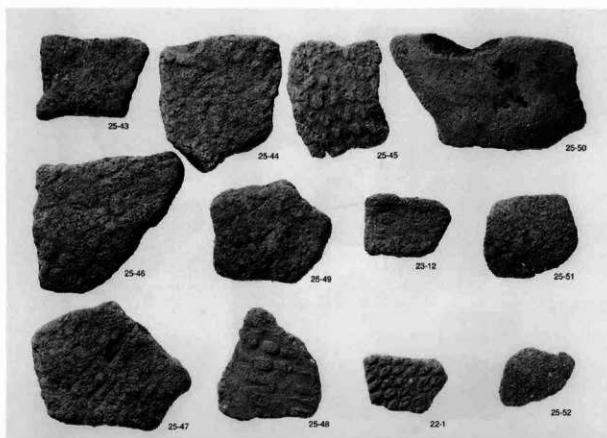


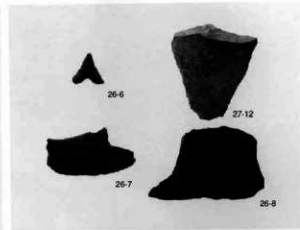
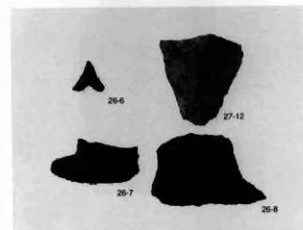
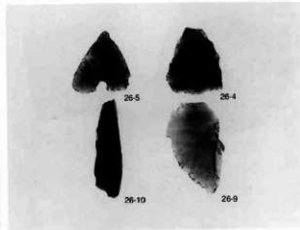
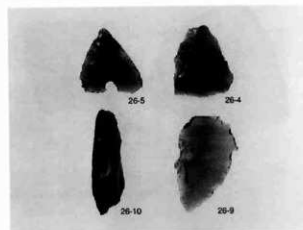
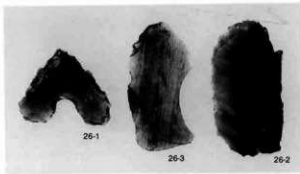
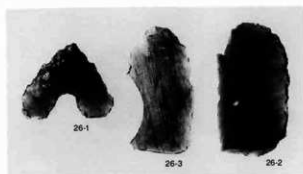
久恵中野遺跡B区出土遺物



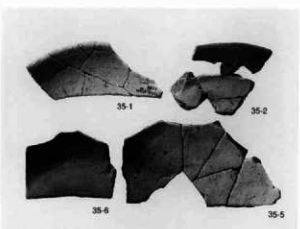
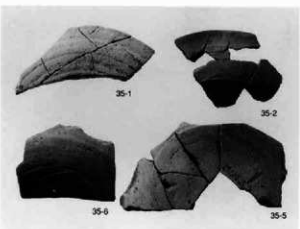
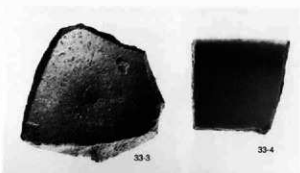
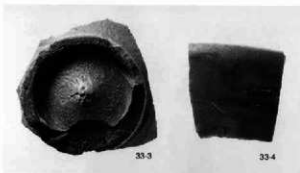
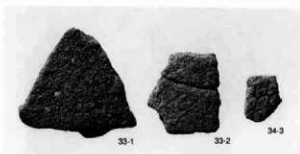
久恵中野道路B区出土遺物







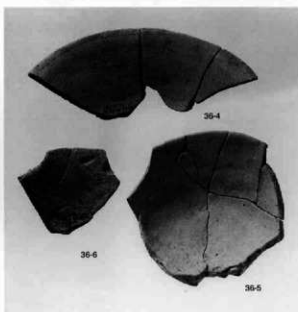
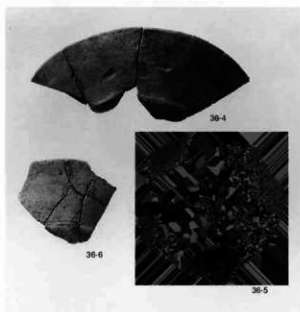
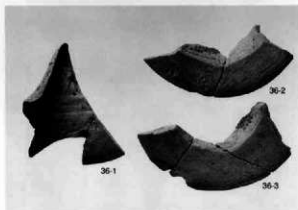
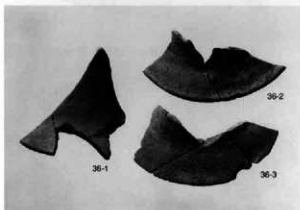
Pla.34



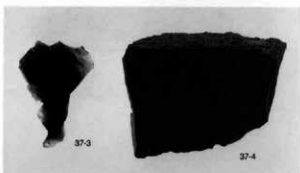
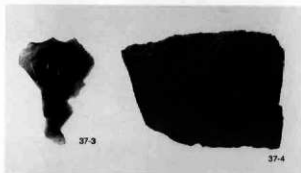
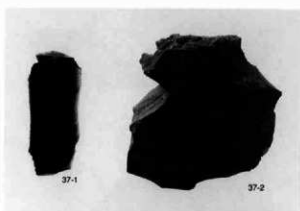
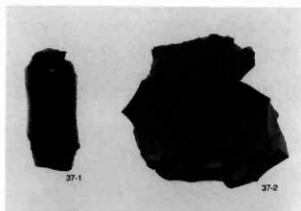
久患上川原遺跡A区表土・ISK15・B区表土・ISD10出土遺物



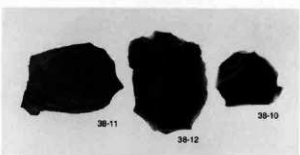
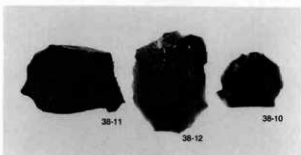
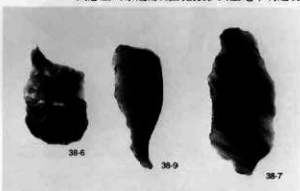
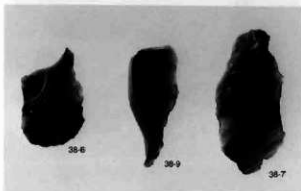
久恵上川原遺跡A区1SD10,B区1SD10出土遺物



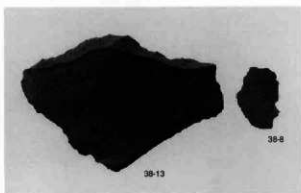
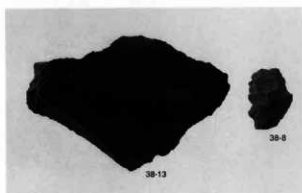
久恵上川原遺跡B区出土地不明・1SI20出土土師器



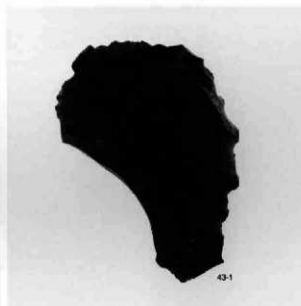
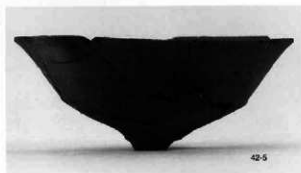
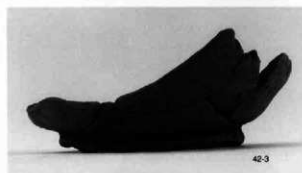
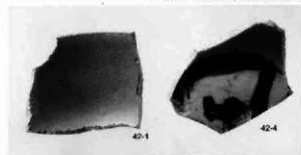
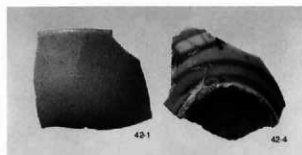
久患上川原遺跡A区ISK15・出土地不明遺物



久患上川原遺跡表土出土遺物



久恵上川原遺跡表土出土遺物



久恵東岸遺跡出土遺物

筑後東部地区遺跡群VIII

筑後市文化財調査報告書 第58集

平成16(2004)年3月

発行 筑後市教育委員会

編集 (財)元興寺文化財研究所

印刷 明新印刷株式会社